

中国安徽省池州市の詩讚系仮面演劇，貴池本「薛仁貴征東伝」について -薛仁貴物語の変遷の研究（2）-

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学人文科学研究所 公開日: 2017-05-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 福満, 正博 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/18720

中国安徽省池州市の詩讚系仮面演劇,
貴池本「薛仁貴征東伝」について
— 薛仁貴物語の変遷の研究 (2) —

福 満 正 博

Xuerengui Zhengdongzhuan of Guizhou Version: A Study of Chinese Opera of Vernacular Chant (Cizanxi)

FUKUMITSU Masahiro

Anhui Nuo is performed on a clan of village. Chizhou Nuo is the best known Nuo opera of Anhui Nuo. Chizhou Nuo Opera is divided into three performing formats: Nuo Ritual, Nuo Dancing and Nuo Drama. The complete stage performance must be mixed with dramatic plot, role-playing, type of role, and qiemo (settings, scene and props). The performing skill can only be learned through oral instruction and the personal teachings passed on to disciples in person from generation to generation. Therefore, the performing art of Nuo opera is normally passed on within a clan from generation to generation. There may be two sacrificial ceremonies (in which the Nuo opera are performed as a must) a year: the “spring sacrificial ceremony” that is held sometime between the seventh day to the fifteenth day of the first lunar month and the “autumn sacrificial ceremony” that is held on the fifteenth day of the eighth lunar month. Apart from these two ceremonies, there is no performance at all throughout the year.

The dance, which has a strong local flavor, continues in many villages in Guichi County of Chizhou today. Surrounded in the mist of incense and smoke, Nuo dancers, colorfully dressed, walk on stilts and wear masks while performing, expressing their wishes of sacrifice to their ancestors, praying for blessing and dispelling evil. While performing in mountainous villages, dancers have to put masks on their foreheads, letting the audiences who are standing on the surrounding slopes to see them clearly. To accompany the dancing, the music instruments range from drum, bell, earthen bowl, bamboo flute and Suona. There is a popular saying among Chizhou area that a village would not be considered a village without Nuo opera.

When Chizhou Nuo Opera is performed, it normally has three integrated components: Nuo dancing, main performance, and salutatory & complimentary remarks. Some of the well-known repertoire of Chizhou Nuo are “Xue Rengui”, “Liu Wenlong”, “Meng Jiangnü”, “Fan Silking” and “Zhang Wenxian” etc.

On this research I studied the story of “Xue Rengui” of Guichi version. Guichi is old and famous place name of Chizhou.

Xue Rengui (614-683), was one of the most famous Chinese generals during the early Tang Dynasty, due to references to him in popular literature. During his career, he participated in successful campaigns against remnants of Western Tujue and against Goguryeo.

Xue Rengui’s life was dramatized in a number of fictional works. The most prominent of these works were the play *Xue Rengui’s Glorious Return Home*, by the Yuan Dynasty playwright Zhang Guobin and an anonymous novel from Qing Dynasty, *Xue Rengui’s Campaign to the East*, and so forth.

In these many versions, four versions have close relation to Guichi version. First is *Xue Rengui's Campaign to the Liao Dynasty* of *Yongle Emcyclopedia* version (1408). Second is *Xue Rengui's Campaign to the Liao Dynasty* of *Chenghua ballad-narrative* version (1471). Third is Xue Rengui of an anthology of Chinese opera *Feng yue jin nang* (1552). Forth is *Xue Rengui kua hai zheng dong bai pao ji* of Fuchuntang press version (17th century).

I comparede Guichi version whith these four versions. In these four versions, I discovered that two versions had close relationship whith Guichi version. These two versions are *Chenghua ballad-narrative* version and Fuchuntang press version.

中国安徽省池州市の詩讚系仮面演劇、 貴池本「薛仁貴征東伝」について — 薛仁貴物語の変遷の研究 (2) —

福 満 正 博

1. はじめに

安徽省池州市清溪郷張村に保存されていた戯曲「薛仁貴東征伝」は、長い変遷の歴史を持ち、複数のジャンルにまたがり数多くの版を生み出した薛仁貴物語の中の一つである。

薛仁貴物語そのものは、『旧唐書』『新唐書』『資治通鑑』などに記されている唐の太宗の高句麗遠征という歴史的事実がもととなって、物語化されたものである。

この話の発端を前稿(1)と重複することになるが、もう一度簡単に述べてみる⁽¹⁾。これは高句麗の蓋蘇文が、国王建武を殺害し、莫離支の位についた事件から始まる。朝鮮半島側の最古の資料である『三国史記』(1145年、金富軾)で見つめる。高句麗本紀にもあるが、列伝の方が詳しく説明されている⁽²⁾。そこで、卷四十九列伝第九蓋蘇文伝を、以下に引用してみる。

蓋蘇文(或云蓋金)、姓泉氏。自云生冰中、以惑衆。儀表雄偉、義氣豪逸。其父東部(或云西部)大人。大對盧死、蓋蘇文當嗣。而國人以性忍暴、惡之不得立。蘇文頓首謝衆請攝職、如有不可、雖廢無悔。衆哀之、遂許。嗣位而凶殘不道。諸大人與王密議、欲誅。事洩、蘇文悉集部兵、若將校閱者、並盛陳酒饌於城南、召諸大臣共臨視。賓至盡殺之凡百餘人。馳入宮、弑斷為數段、棄之溝中。立王弟之子臧為王、自為莫離支。其官如唐兵部尚書兼中書令職也。於是號令遠近、專制國事、甚有威嚴。身佩五刀、左右莫敢仰視。每上下馬、常令貴人武將伏地而履之。出行必布隊伍。前導者長呼、則人皆奔迸、不避坑谷。國人甚苦之。

朝鮮史の最古の基本資料である『三国史記』の列伝によれば、蓋蘇文は以下のように書かれている。彼は若いころから評判が悪かったが、父の跡を継いで高官となる。しかし相変わらず行跡が悪いので、国王をはじめ皆で罰しようとした。それを知った蓋蘇文は、兵士を集めて閱兵に見せかけ、城南に宴会場を設けて酒席を盛大にして見物の大臣たちを集め、一気にそれら数百人を殺害した。そし

て宮殿に入って、高句麗の国王（栄留王，建武）を殺し、切り刻んで溝に捨てたというのである。その後、殺害した栄留王の、弟（太陽）の、子供である「臧」を国王の位に着けた。自分は兵権と内政との両方つかさどる「莫離支」という大臣の役につき、好き放題に権力を振るった。体には五振りの剣を帯びていた。馬で移動するときも、乗り降りする時に、近くの貴人や武將を地面に伏させて踏み台に使った。外出するときは、長い行列を付け、先払いの声を聞くと、近くの民衆は怖がって逃げまどった。というのが、蓋蘇文の伝記の要約である。

蓋蘇文は、若いころから品行が悪く評判が悪かった。青年期に品行が悪いだけならば、さして問題のないことである。青年時代に素行が悪くて、その後時代の変革を担うほど大活躍する人物も、稀にはいるからである。国王を殺害し、数百人を殺したのであれば、悪人といえなくもない。しかし、古代において蓋蘇文のような人物は、日本でも中国でも世界中で、幾らでもいるわけである。だから、取り立てて非難するには及ばないように思える。ただ、高句麗の蓋蘇文の場合は、その場所と時期がよくなかった。相手がよくなかったと思われる。

さて、この事件に対する中国の唐王朝側の記録を見てみたい。蓋蘇文のことを記す中国側の資料は、『旧唐書』（後晋，劉昫，945年），『新唐書』（宋，歐陽脩，1060年），『資治通鑑』（宋，司馬光，1084年）など多数ある。ここでは簡便のため、『資治通鑑』（2007年，中華書局）を使うこととする。卷一百九十六，太宗貞観十六年に、次のように記されている。括弧の中は，中華書局の校点本に付けられた胡三省の注である。

十一月，丁巳，營州都督張儉奏高麗東部大人泉蓋蘇文弑其王武。（泉姓也。新書曰，蓋蘇文者，或號蓋金，姓泉氏。自云生水中，以惑衆。麗，力知翻。考異曰，舊傳云西部大人。今從實錄）蓋蘇文凶暴多不法，其王及大臣議誅之。蓋蘇文密知之，悉集部兵若校閱者，並盛陳酒饌於城南。召諸大臣共臨視。勒兵盡殺之，死者百餘人。因馳入宮，手弑其王。自為莫離支，其官如中國吏部兼兵部尚書也。於是號令遠近，專制國事。蓋蘇文狀貌雄偉，意氣豪逸，身佩五刀，左右莫敢仰視。每山下馬，常令貴人，武將伏地而履地。出行必整隊伍，前導者長呼，則人奔迸，不避阡陌，路絕行者，國人甚苦之。（呼，火故翻。迸，必孟翻。為征高麗張本）

さて『資治通鑑』の一文を一見すると、まず先ほど引用した高麗王朝時代に作られた朝鮮の最古の歴史書である『三国史記』とほぼ同文だということに気が付く。『資治通鑑』が1084年、『三国史記』が1145年であるから、文字や文章の順番が多少異なるものもあるが、朝鮮最古の歴史書である『三国史記』は、中国側の資料をそのまま転用したとしか考えられない。

蓋蘇文が高句麗王朝の第27代栄留王（建武）を殺害したのは、『三国史記』の高麗本紀の記述によれば、642年の10月である。驚くべきことに、その同じ年の11月に、すでに唐の太宗は、栄留王殺害の詳細な報告を受けていたということである。報告を奏上したのは、当時營州都督の張儉である。私が『資治通鑑』を読んだ範囲でいえば、幽州（現在の北京市）が唐王朝の東方戦略の拠点だとすると、營州はさらに東側、現在の遼寧省の西側に当たる地域である。唐王朝の、東方戦略の最前線にあった

と位置づけられていたとすることができる。その営州の都督から、事件の発生後すぐに、報告がなされたのである。そしてこの事件は、『資治通鑑』の注を書いた学者でもあり、歴史家としても評価の高い胡三省により、「為征高麗張本」と書かれたのである。つまり歴史家としての胡三省によれば、この蓋蘇文の事件こそ、唐の太祖の高句麗遠征の原因となったというのである。もちろんこれは、中国側からする見方である。

少し本稿の筋から外れるが、日本の大和朝廷は、どうであったのか。さて、大和政権では7世紀にも入ると積極的に国外の情報を収集していたように思う。本稿で取り上げる薛仁貴物語の事件の直接の引き金になった出来事が記録されている。『日本書紀』皇極天皇元年（642）二月に次のような記録がある。

壬辰、高麗使人泊難波津。

丁未、遣諸大夫於難波郡，檢高麗國所貢金銀等並其獻物。使人貢獻既訖，而諮云，去年六月，弟王子薨。秋九月，大臣伊梨柯須彌殺大王，並殺伊梨渠世斯等百八十餘人。仍以弟王子兒為王。以己同姓都須流金流為大臣。

二月の壬辰の日、高句麗の使者の船が来て、難波津に停泊した。丁未の日に、朝廷は役人を派遣して金銀などの贈り物を検査した。高句麗の使者は、積み出しが終わってから、次のように言った。去年の六月に国王（建武）の弟（太陽）が死にました。九月になると大臣のイリ柯須彌が、国王建武を殺害しました。そしてイリ渠世斯など百八十人も合わせて殺害しました。それから国王の弟の子供に当たる人物を、新しく国王にしました。そして自分の同族の都須流金流を、大臣にしました。このように日本の役人に伝えたというのである。

「伊梨柯須彌」の「柯須彌」というのは、ほかの歴史的資料から見ても高句麗の「蓋蘇文」であることは、間違いない。中国の漢字の中古音で、「柯須彌」は /kasiumie/ であり、「蓋蘇文」は /kaisumiæn/ であったはずである。両方の漢字三字の頭子音を比較すると、/k-/（見母）、/s-/（心母）、/m-/（明母）であり、すべて一致している。「蓋蘇文」を「柯須彌」と記録したのは、日本の役人（通訳）が、何かの文字資料を見せてもらったのではなく、高句麗人の話しを聞いたままに、音声を頼りに記録したということを示している。

「伊梨」については、いろいろ説明があるが、どれも納得できるものではない。今の所は未詳ということにしておく。

歴史的な資料から、蓋蘇文の事件は642年に起きたことは間違いない。それを「去年」のこととして、高句麗の使者は伝えている。『日本書紀』は、一年記録がずれていることがわかる。本来なら皇極天皇二年に、高句麗の使者が来て伝えた話のはずである。

しかしそのようなことは、大した問題ではない。それよりも重要なことは、その後東アジア世界を大きく動かしていく蓋蘇文の問題が、日本の大和政権も認識していたということである。大和政権も

国際化を進め、情報収集に努めていた。だから、たまたま高句麗からの貢物の船が、事件の翌年に来たので、事情を手に入れた。しかしこれは、唐王朝側のように、朝鮮半島の内部まで網の目のように情報網を巡らせて、事件の一か月後には直接中国皇帝が事件の詳細な報告を目にしていたのとは、比べべくもない。

ともかくこの唐の高句麗遠征により、高句麗・百済は滅亡へとつながる。朝鮮半島の三国並立の時代は終わりを告げ、新羅による統一が実現される。大和王朝も、白村江の戦いで敗北し、朝鮮半島から完全に撤退することになるのである。日本では、白村江の戦いですら、歴史に残されるだけで、文芸として伝えられることはなかった。しかし中国では、この事件が現代にいたるまで文芸として長く伝えられている。それが薛仁貴物語である。

2. 薛仁貴物語の版について

薛仁貴物語の舞台となる、古代の高句麗国というのは、現在の地理的名称を使えば、遼寧省の遼東半島から朝鮮半島北部にかけての地域である。薛仁貴の物語は、唐王朝の二代目皇帝太宗による、高句麗に対する軍事的遠征の話である。その際に活躍した武将が、この話の主人公である薛仁貴である。

薛仁貴に関する話で、現存するもっとも古いものは、元刊本の「薛仁貴衣錦還郷」である。このような戯曲・雑劇分野では、『元曲選』に収められる「薛仁貴榮帰故里（正名）」のほかに、「摩利支飛刀対箭」（『古本戯曲叢刊』第4集所収）、「賢達婦龍門隱秀」（『古本戯曲叢刊』第4集所収）などがある。南戯分野では、「新刊全家錦囊薛仁貴」（『風月錦囊』所収）、「薛仁貴跨海白袍記」（『古本戯曲叢刊』初集所収）、「金貂記」（『古本戯曲叢刊』初集所収）がある。散齣集として万暦39年の『摘錦奇音』巻五に「敬徳犒賞三軍」、『群書類選』諸腔類巻四に「白袍記」がある。また「金貂記」（『故宮珍本叢刊、崑弋本戯』669冊、故宮博物院編）、「淤泥山」（『故宮珍本叢刊、乱彈齣戯』677冊、故宮博物院編）、「過平頂山」（『故宮珍本叢刊』685冊、故宮博物院編）などもある。「金貂記」（『中国国家図書館蔵清宮昇平署档案集成』58冊）、「唐伝」（『中国国家図書館蔵清宮昇平署档案集成』66冊）などもある。現在の地方劇の中でも、京劇の「薛仁貴救駕」（『京劇彙編』第100集、『京劇伝統劇本彙編』第14冊）、昆曲の「定天山」（『俗文学叢刊』第66冊）、四川劇の「白袍記」（『川劇伝統劇目集』第1集所収）、青陽腔「金貂記」などの名を見ることができる。他に多数の劇が、各地の地方戯に残されている。

小説・語り物系統としてはまず、『薛仁貴征遼事略』（『永樂大典』巻5244所収）、明・成化本『新刊全相唐薛仁貴跨海征遼故事』（『明成化説唱詞話』所収、文物出版社影印、1979年）などが古いものとしてあげられる。後世の小説として、『隋唐兩朝史伝』（『古本小説集成』所収、上海古籍出版社）、『説唐後伝』（『古本小説集成』所収、上海古籍出版社）などがある。『説唐後伝』の異版は数多くある。語り物として『鼓詞絵図征東全伝』（『故宮珍本叢刊』第711冊、故宮博物院編）、『薛仁貴征東全歌』（『稀見舊版曲藝曲本叢刊』所収、北京図書館出版社）などがある。またハングルでも『白袍小将薛仁貴伝』（『古小説集』、仁川大学民族文化資料叢書）などが見える⁽³⁾。

このように薛仁貴物語は、千数百年の長きにわたって、歴史書・戯曲・小説などの広い範囲で、伝えられ続けた話柄である。様々な意味で、われわれ日本人が考える以上に、中国人にとっては語り伝えられるべき重要性を持った事件だったと言えるだろう。

3. 「貴池本薛仁貴」の本文分析の前に

本稿で対象とする安徽省池州市清溪郷張村に保存されていた戯曲「薛仁貴東征伝」は、王兆乾・王秋貴著『安徽省貴池市劉街郷源溪村曹・金・柯三姓家族的儺戯』⁽⁴⁾に、その影印が掲載されているものである。著者である王兆乾氏と王秋貴氏は、中国全土にわたって古い演劇文化の発掘と保存に尽力された世界的に著名な研究者でもある。本研究はその貴重な影印本の戯曲「薛仁貴東征伝」に注目して、研究を進めるものである。この影印は、以下叙述の簡便のため、「貴池本薛仁貴」と略称することとする。

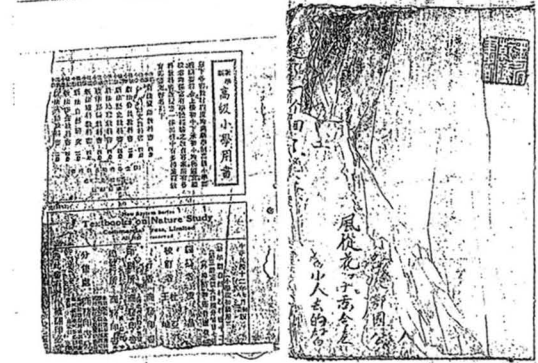
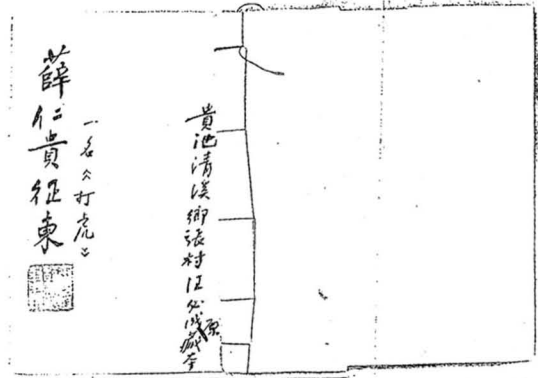
さて後ろに掲げる影印の写真からもわかるように、原本の「貴池本薛仁貴」は1920年代に当時の高等小学校の教科書のページに包まれているようである。挙げてあるのは、その抄本「薛仁貴東征」の最初の部分の写真である。残念ながら、原本を見る機会を得ていない。したがって、王兆乾氏がこの写本を入手した経緯、その保存場所などについては、一切わからない。刊記として、「貴池清溪郷張村汪必成元藏本」と書かれている。清溪郷というのは、貴池市から儺戯が多く上演される梅街・劉街などの東南方向の郊外に向かう道路沿い、中心からそれほど離れていない地域である。残念ながら、その地に車を止めたことはない。原蔵者の汪必成氏についても何も知ることはない。

したがって、本稿では影印された「貴池本薛仁貴」の本文だけを頼りに、真偽問題も含めて、分析を進めていかなければならない。「貴池本薛仁貴」の本文を分析するためには、まずこの手書きの原稿を、誰でも読める形にするために、文字として起こす作業をしなければならない。この文字に起したものは、本稿の後半の部分に掲載してあるので、参照していただきたい。

その後に、第2章に挙げた薛仁貴物語の多くの版と比較検討しなければならない。結論を言えば、数ある薛仁貴物語の版の中で、「貴池本薛仁貴」の本文を検討するために必要な版は、次の五つである。

- (1) 『薛仁貴征遼事略』（『永楽大典』巻5244所収）、
- (2) 明・成化本『新刊全相唐薛仁貴跨海征遼故事』（『明成化説唱詞話』所収、文物出版社影印、1979年）、
- (3) 「新刊全家錦囊薛仁貴」（『風月錦囊』所収）、
- (4) 富春堂本「薛仁貴跨海白袍記」（『古本戯曲叢刊』初集所収）、『説唐後伝』（『古本小説集成』所収、上海古籍出版社）
- (5) 『説唐後伝』（『古本小説集成』所収、上海古籍出版社）

これらは、簡略のために以下順番に、「永楽大典本薛仁貴」、「成化本薛仁貴」、「風月錦囊本薛仁貴」、「富春堂本薛仁貴」、「『説唐後伝』本薛仁貴」と呼ぶことにする。



貴池本薛仁貴（『薛仁貴征東』）の影印

4. 「貴池本薛仁貴」と他の版との比較

第3章で「貴池本薛仁貴」の本文の分析のために、5つの版と比較検討することを述べた。以下それぞれについて、比較検討した結果を述べていくことにする。

(1) 「貴池本薛仁貴」と「永楽大典本薛仁貴」の関係

『永楽大典』は、明代の永楽帝の勅撰の巨大な編纂事業の成果である。永楽3(1405)年に着手して、永楽6(1408)年に完成している。様々な事情で焼失し、今は僅かしか残っていない。

「薛仁貴征遼事略」というのは、イギリスのオックスフォード大学に蔵される『永楽大典』の残巻の「遼」の字の韻の部分にあるものである⁽⁵⁾。これを研究した趙萬里は、本文中に出てくる「芙蓉城下、子高適會瓊姬」(『永楽大典』本25B)という句が、蘇東坡の「芙蓉城並敘」『蘇東坡詩集』卷十六⁽⁶⁾にも取り上げられていることを指摘する。なおこの故事をめぐる一連の話は、宋の趙彦衛の『雲麓漫鈔』巻十にも論述されている⁽⁷⁾。また、南戯においても上演されていたようで、銭南陽の『宋元戯文輯佚』は、「王子高」の項に録されている故事と同じであることを指摘する⁽⁸⁾。したがって「薛仁貴征遼事略」は、南宋から元初にかけて成立した作品だとする⁽⁹⁾。

成立時期はともかく、『永楽大典』に録される「薛仁貴征遼事略」は、明代の永楽年間以前に出版された話本の形式の小説書の転載だと思われる。したがってこの「薛仁貴征遼事略」を「永楽大典本薛仁貴」と呼んで、以下分析を進めていきたい。

「永楽大典本薛仁貴」の五分之一ほどの量になる、最初の部分が、「貴池本薛仁貴」に相当する。朝鮮半島の伯濟国からの使者昌黒飛が登場する最初の場面から、太宗の遠征軍が海を渡る場面の間が、これに相当する。事件の流れから見ると、「永楽大典本薛仁貴」と「貴池本薛仁貴」とは、ほぼ同じである。異なるのは、「永楽大典本薛仁貴」がまず「平遼論」を献上する場面があり、その次に海を渡る場面となる。この順番は、「富春堂本薛仁貴」も『説唐後伝』本薛仁貴も同じである。これに対して、「貴池本薛仁貴」だけが、この順番を逆にしている。

後で論ずるように「永楽大典本薛仁貴」と「貴池本薛仁貴」とは、直接的な関係はないものと思われる。「貴池本薛仁貴」が、直接的に関係しているのは、「富春堂本薛仁貴」であるからである。文章としても、共通のものを探すと、伯濟国からの使者昌黒飛の顔に入れ墨した太宗を非難する言葉、「殺兄前殿、囚父後宮」が一つ挙げられる。しかしこれは、ほぼ全ての薛仁貴伝に共通するものである。したがって、「永楽大典本薛仁貴」と「貴池本薛仁貴」には、共通した言葉はないと言っても、間違いではない。

しかし、全く無いのかといえ、少し気になる点が二つある。一つは、「永楽大典本薛仁貴」で洛陽の九龍門で陣形を作って行進する場面がある。このとき太宗が次のように言う。

帝與英公大笑言曰：奇哉此陣。見左右方圓，內虛外實，勢若繩緝剪紙，陣形用內虛外實，所以孫吳具載。(14B/7)

英公曰：此陣甚好，敵避之為虛，擊之為實，得武侯八陣法。(15A/3)

これらを見ると、「永楽大典本薛仁貴」では陣形の「虚実」が問題となっている。この「虚実」が、「貴池本薛仁貴」でも問題となって表現される。

〔王白〕

龙门陈摆都摆的好，不知裡面虚实若何。你与我從摆一阵。

〔胡白〕

张仕贵。

〔仕白〕

不敢。

〔胡白〕

我王说道，龙门陈摆都摆的好，不知裡面虚实若何。你与我從摆一阵。(192 頁上段 /9 行) (注：貴池本薛仁貴については，王兆乾・王秋貴著『安徽省貴池市劉街郷源溪村曹・金・柯三姓家族的儼戲』の影印を使った。そのページ数と，上段と下段を区別し，それぞれに行数を記した。以下同じ。)

このように，陣形の「虚実」(「虚実」)が問題となっている。「虚実」という言葉は「永楽大典本薛仁貴」と「貴池本薛仁貴」とだけに見られる言葉で，ほかの「富春堂本薛仁貴」などの版では見られない言葉である。

二つ目は，薛仁貴の出身地の問題である。薛仁貴の出身地を，各版について示すと次のようである。

「永楽大典本薛仁貴」	：	絳州龍門縣大黃庄分曲村
「成化本薛仁貴」	：	絳州龍門縣大王庄
「富春堂本薛仁貴」	：	絳州龍門縣
「『説唐後伝』本薛仁貴」	：	山西絳州府龍門縣太平庄

また参考までに，戯曲系列の方を示すと，次のようである。

元刊本	：	絳州龍門鎮
元曲選本	：	絳州龍門鎮大黃庄
内府本		
「摩利支飛刀對箭雜劇」	：	龍門鎮大黃庄

「貴池本薛仁貴」の第十出では、薛仁貴が軍に応募する場面で自分の本籍について「絳州龍門縣」と述べている。とすれば「富春堂本薛仁貴」と同じということになる。

ところが「貴池本薛仁貴」は、最後の十六出で薛仁貴が次のように述べるのである。

〔仁白〕

多有得罪，大人请在荒忙宽住几日。

これは、最後に朝廷から使者が来て薛仁貴一家にいろいろな恩賞を与えられたときのお礼の言葉である。問題は「荒忙」の二字である。「忙」の字は、すでに原文の中で横に「庄」の字に訂正することが書き込まれている。字形が類似しているので、誤記したということであろう。そうすると引用したこの部分は、「かたじけない、使者の茂公様、しばらくゆっくりとここの荒庄に泊まっていかれよ」と訳することができる。

そうすると、「荒庄」について二つの解釈ができる。一つは「荒」の字は、声調は異なるが同音である「黄」の字の誤伝承というものである。そうすると、「貴池本薛仁貴」は、「成化本薛仁貴」や「富春堂本薛仁貴」を遡って、もっと古い伝承である「永楽大典本薛仁貴」の「絳州龍門縣大黃庄」の名前を残していることになる。もう一つの解釈は、薛仁貴が自分の住む場所を、謙遜して「荒庄」と述べたという解釈である。前者であれば、「永楽大典本薛仁貴」が成立する前からの語り物の薛仁貴が、底流としてずっと流れていて、それが「貴池本薛仁貴」に顕在化したということができる。

以上挙げた二つの点は、立証としては希薄である。しかし「貴池本薛仁貴」は、微かであるが「永楽大典本薛仁貴」と繋がっていることを示しているように見える。

(2) 「貴池本薛仁貴」と「成化本薛仁貴」

成化刊本説唱詞話というのは、1967年に上海の嘉定県で明代の墓の中から発見されたものである。刊記によれば、成化7(1471)年から成化14(1478)年までの間に、北京の永順堂から出されたものである。全部で11の作品があり、その中の一つが成化7年刊行の「新刊全相唐薛仁貴跨海征遼故事」、ここで「成化本薛仁貴」と呼んでいるものである。

「説唱詞話」の作品は、主に七言・十言の句を連ねて、物語を進めていく文学形式である。詩讀系講唱文学と呼ばれるものである。これは、ほかにはほとんど残っていない。これに対して、長短の不揃いの詞形式の句を使った文学形式があり、楽曲系講唱文学と呼ばれる。これは話本とか諸宮調といった作品群が残っている。このような意味で、近年発見された成化刊本説唱詞話の価値は、大きい。

さて「貴池本薛仁貴」が、「成化本薛仁貴」と対応する箇所を、前後に並べてみると次のようである。

①

耐耐唐天子，貪財世不休。
 杀兄在前殿，囚父後宮愁。
 饶你江山廣，通無世百州。
 吾当出一阵，遍地血澆流。（貴池本 183 頁上段 B/5）

頗耐唐天子，貪財世不休。
 殺兄在前殿，囚父後宮愁。
 饒你江山廣，通無四百州。
 吾當出一陣，遍地血澆流。（成化本 2A/3）

②

多多拜上小秦王，來年八月混唐拜（邦）
 若還來歸順我，點將興兵到此間。
 唐朝何人保秦叔寶，生擒叔寶交戰馬。
 還有何人胡敬德，或捉敬德抵刀鎗。
 生擒敬德秦叔寶，活捉長安大唐君。
 若還我到長安地，那時躡作放牛場。（貴池本 183 頁上段 B/9）

表章若到長安里，傳語吾兒李世民。
 若還不把來進奉，領將興兵到此門。
 生擒敬德秦叔寶，活捉長安大唐軍。
 又送戰書來征戰，高麗軍師進表文。
 再三傳示小秦王。
 今年不來歸順我，來年八月混唐邦。
 生擒叔寶交戰馬，活捉敬德奠刀鎗。
 若還我到長安地，那時踏做放牛場。（成化本 2A / 9）

③

耐耐唐天子，貪財世不休。
 煞兄在前殿，囚父後宮愁。
 饶你江山廣，通吾四百州。
 吾当出一阵，遍地血澆流。（貴池本 184 頁上段 B/2）

頗耐唐天子，貪財世不休。

殺兄在前殿，囚父後宮愁。
 饒你江山廣，通無四百州。
 吾當出一陣，遍地血澆流。（成化本 2A/3）

④

多多拜上小秦王，來年八月混唐拜（邦）。
 若還不來歸順我，點將興兵到此間。
 毫兄你也有個尊名，生尋叔寶交戰馬。
 这个小畜生也有一個尊名，活捉敬德低刀鎗。
 生尋敬德秦叔寶，活捉長安大唐君。
 若還我到長安地，那時晒作放牛場。（貴池本 184 頁上段 B/7）

表章若到長安里，傳語吾兒李世民。
 若還不把來進奉，領將興兵到此門。
 生擒敬德秦叔寶，活捉長安大唐軍。
 又送戰書來征戰，高麗軍師進表文。
 再三傳示小秦王。
 今年不來歸順我，來年八月混唐邦。
 生擒叔寶交戰馬，活捉敬德斃刀槍。
 若還我到長安地，那時踏做放牛場。（成化本 2A /9）

⑤

吾今傳與唐帝王，三台八位論原因。
 面刺海東伯齊國，現今猛將有名人。
 托總傳軍都元帥，宣牌掛印蓋蘇文。
 廝煞叢中為第一，輪鎗跨馬打頭名。
 吾（五）度興兵到大海，三番三（舉）意晃天門。（貴池本 184 頁下段 B/3）

吾今說與李世民，三臺八位論元因。
 面刺海東伯濟使，現藏猛將有名人。
 把總催軍都元帥，宣牌掛印葛蘇文。
 廝殺叢中為第一，輪鎗跨馬打頭名。
 五度興兵到大海，三番舉意晃天門。（成化本 2A/6）

⑥

忠臣叉手房玄龄，向前万岁听原因。
 昔日殇（场）帝征东去，损折大半不回呈。
 我王不知辽东事，听臣仔细说原因。
 万里南朝征小国，我主辛苦过辽东。
 辽东不比京城地，物少人稀怎得行。
 日出扶桑田地远，八分三水二分人。
 辽东遍损英雄将，海气能伤大国君。
 標刀斬馬盡磨快，弩箭伤人八九分。
 无边海水翻波浪，有难谁来救主人。
 海边犹如活地狱，辽东赛过鬼關津。
 磨天應地藏猛虎，浮疊江山怎太平。
 山高路远藏贼将，千員猛将去征東。
 君臣平到高丽国，却是擎天跨海人。（貴池本 185 頁上段 A/4）

忠臣房玄叉定手，向前萬歲大唐君。
 昔日場帝征東去，損拆（折）大半不回程。
 我王不知遼東事，听臣仔細說元因。
 萬里南朝征小國，唐軍辛苦過遼東。
 遼東不比中原地，物少人希（稀）怎住存。
 日出扶桑田地遠，八分山水二分人。
 遼東徧損英雄將，海氣能傷大國軍。
 標（鏢）刀斬馬進毛快，弩箭傷人刺九分。
 無边海水番（翻）風浪，有难能救主人。
 海边猶如活地獄，遼河賽過鬼關津。
 磨天隱跡藏龍虎，浮疊江心接海門。
 草藥途中傷戰馬，不服水土損唐軍。
 山高路遠藏賊將，山間樹木隱強臣。
 百萬唐兵都過海，千員猛將出西秦。
 君臣平得高麗國，真是擎天架海人。（成化本 2B/11）

⑦

敬德听说眉头皱，不由烦恼在心坎。
 前唐不觉年年乱，六十四处起烟尘。

李靖阴阳知祸福，老臣跨马去征东。（貴池本 185 頁下段 A / 4）

胡敬德，听说罷，眉頭緊皺，
不由人，添煩惱，暗里傷情。
想前唐，自不巧，年成着（荒）乱，
有六十，單四處，各起烟塵。
宣李靖，好陰陽，能知禍福，
有微臣，曾誇口，杀尽胡人。（成化本 4A / 1）

⑧

柳氏開言催虎將，廣交言語告將軍。
你去投軍休恚（挂）我，我在家中事六親。
出外常存君子道，离家莫起小人心。
路上野花休要採，調油弄粉害人精。
常想人家立大業，殘茶淡酒莫糊吞。
你若得了些微病，德（得）病無人看你身。
正東過海功勞大，轉身就受帝皇恩。
金良（銀）財寶休去擄，只求安樂早回呈。（貴池本 187 頁上段 A / 6）

柳氏開言催虎將，多嬌歎語告將軍。

你去投軍休管我，我在家中靠六親。

出外長存君子意，老實本分自天聞。

牆外野花休插帶，調油弄粉暗傷人。
常想成家立身計，殘茶冷飯莫胡吞。
倘若有些艱難病，得病無人救你門。
征東過海功勞大，若進身榮受帝恩。
金銀財寶休搶擄，只求安樂早歸門。（成化本 7A / 7）

⑨

三貞九烈為大道，義（萬）古流傳作話名。（貴池本 187 頁上段 B / 7）

賽三貞，和九烈，萬古留名。（成化本 8B / 8）

⑩

天子点兵百万，占（点）将千員，千開宝库，将金良（銀）尽賞与衆軍。

（貴池本 191 頁上段 B/1）

天子毎日不想朝中之事，只要点軍百萬，戰將官圓，糧草先行，開了寶藏庫，將金銀寶物尽皆賞与官軍頭目。（成化本 10B/10）

⑪

天子御駕征東，自從離了長安大國過了東羊大海，就文江越虎城，安營下寨。

（貴池本 195 頁上段 B/4）

唐太宗天子御駕親征，自從離了大國長安，過了東洋大海。天子道，三江越虎城安營下寨。

（成化本 13A/1）

「成化本薛仁貴」には、「貴池本薛仁貴」と本文が一致する文章が 11ヶ所ある。

(3) 「貴池本薛仁貴」と「風月錦囊本薛仁貴」

『風月錦囊』は、嘉靖癸丑（32, 1552）年の刊記のある散齣集である。散齣というのは、一つの戯曲的一幕・二幕の短いものことである。それを集めたのが、散齣集である。この『風月錦囊』に、「新刊全家錦囊薛仁貴十七卷」として、富春堂本「薛仁貴沃跨海征東白袍記」の第三十一折の「耍孩児」の曲だけが収められている。現存の富春堂本と比較してみると、字句にほとんど異同がない。普通富春堂本は、明末から清初に刊行されたと考えられている。しかし、嘉靖年間に刊行された本と本文が一致するという事は、富春堂本の戯曲の薛仁貴は、明代中期の嘉靖年間と遠くない時期に成立した可能性も考えられる。これは、富春堂本すべてを検討しなければ、結論を出すことはできないので、また機会を見て考察することとしたい。

「耍孩児」の曲の中で、薛仁貴はこれまでの事件を振り返っている。その中に次のような言葉が見える。

① 「擺龍門陣（龍門の陣形を作った）」

② 「見平遼論（遼国の討伐策を献上した）」

③ 「若不是免朝二字，怎能穀跨海東征（「免朝」の二字を海に沈めることを私が思いつかなかつたら，どうして唐の軍隊が海を渡ることができたろうか）」

これら三つは、それぞれ「龍門陣」，「平遼論」，「過海計」の名で知られる場面である。永楽本や成化本では、このうち「龍門陣」という陣形の話は出てこない。また「過海計」の中で、「免朝」の二字の話は出てこない。これらの三つの場面がすべて出てくるのは、「富春堂本薛仁貴」である。「貴池本薛

仁貴」の中では、第13出、第15出、第14出に相当する。貴池本のこれら三つの場面は、嘉靖年間には、成立していたものと思われる。また「貴池本薛仁貴」と「富春堂本薛仁貴」との近さが、ここからも窺われる。

なお『群音類選』諸腔類卷四に「白袍記」が見えるが、これも「富春堂本薛仁貴」と同じものである。

(4) 「貴池本薛仁貴」と「富春堂本薛仁貴」

富春堂は、金陵にあった書店である。台湾の中央図書館には、富春堂が刊行した戯曲が20冊ほど蔵されていて貴重である。巻首には『新刻出像音註薛仁貴跨海征東白袍記』と記されている。単欄、白口、眉欄有り。每半葉10行、毎行21字。小字双行、毎行21字である。46折、上下二巻に分かれている。

「貴池本薛仁貴」が、「富春堂本薛仁貴」と対応する箇所を、前後に並べてみると次のようである。

①

小生姓薛，名仁貴，家住絳州龍門縣，□□□□□□□□□□，自幼功書功名未遂。不知何日，得上云梯。□□獨守寒窗，三略法，胸臆六韜書，今日春景融和，百花生開，不免請出娘子，同賞片時，有何不可。娘子那裡。（貴池本 181 頁下段 A/3）

小生姓薛，名仁貴，祖居絳州龍門縣。招着柳金定為妻。功名未進，何時得上雲梯。夫婦和順，又兼百事相宜。當初結義兄弟十人，如今各自散去安生。只有卑人獨守書窗，幼習黃公三略法，胸中藏着呂公書。今當春景融和百花爛漫，請娘子到此觀翫一時，多少是好。娘子有請。

（富春當本 2B/1）

②

輕行細步出蘭房，玩賞□□□□□。

水响石邊流出冷，風從花孕我含羞。（貴池本 181 頁下段 B/6）

輕移蓮步出蘭房，玩罷名園日色光。

水向石邊流出冷，風從花裡過來香。（富春當本 3A/8）

③

達達回回生外國，□（蠻）夷落落出南朝。

这回若領安邦淨（靜），方顯男儿志氣高。

自家伯齊國伯牙太子是也。父王當年許下唐朝三般寶貝，至今未曾進貢到唐朝去。

（貴池本 182 頁上段 B/1）

答答回回生外國，蠻夷落落出南朝。

這回若得安邦靜，方信男兒志氣高。

俺不是別人，伯濟國中伯涯太子是也。我父王當許三般寶貝以付唐朝，免得爭戰。

至今未曾進奉。

(富春當本 3B/2)

④

三般宝贝献明君，願取唐朝納獻文。

從此四方皆立正，当今万代一乾坤。(貴池本 182 頁下段 A/6)

三般寶貝進明君，願取唐君納獻文。

從此四方來立正，當今萬代一乾坤。(富春當本 4A/1)

⑤

耐耐唐天子，貪財世不休。

殺兄在前殿，囚父後宮愁。

饒你江山廣，通無世百州。

吾當出一陣，遍地血澆流。(貴池本 183 頁上段 B/5)

耐耐唐天子，貪才世不休。

殺兄在前殿，囚父後宮愁。

饒你江山廣，通無四百州。

吾當只一陣，遍地血澆流。(富春當本 5B/7)

⑥

多多拜上小秦王，來年八月混唐拜(邦)

若还不來歸順我，點將興兵到此間。

唐朝何人保秦叔寶，生擒叔寶交戰馬。

还有何人胡敬德，或捉敬德抵刀鎗。

生擒敬德秦叔寶，活捉長安大唐君。

若还我到長安地，那時晒作放牛場。(貴池本 183 頁上段 B/9)

再三上伏小秦王，來年八月叛唐邦。

生擒叔保

交戰馬，活捉敬德祭槍刀。

若是投降來拱伏，免我親身下戰場。

若道半聲言不肯，唐朝改作放牛場。(富春堂本 5B/9)

⑦

耐唐天子，貪財世不休。
 殺兄在前殿，囚父後宮愁。
 饒你江山廣，通吾四百州。
 吾当出一陣，遍地血澆流。（貴池本 184 頁上段 B/2）

耐唐天子，貪才世不休。
 殺兄在前殿，囚父後宮愁。
 饒你江山廣，通無四百州。
 吾當只一陣，遍地血澆流。（富春堂本 5B/7）

⑧

多多拜上小秦王，來年八月混唐拜（邦）。
 若还不來歸順我，點將興兵到此間。
 毫兄你也有個尊名，生尋叔寶交戰馬。
 這個小畜生也有一個尊名，活捉敬德低刀鎗。
 生尋敬德秦叔寶，活捉長安大唐君。
 若還我到長安地，那時晒作放牛場。（貴池本 184 頁上段 B/7）

再三上伏小秦王，來年八月叛唐邦。
 生擒叔寶交戰馬，活捉敬德祭槍刀。
 若是投降來拱伏，免我親身下戰場。
 若道半聲言不肯，唐朝改作放牛場。（富春堂本 5B/9）

⑨

萬歲萬萬歲，自從我王登殿一十八載，天下太平，諸國來朝，海上魚翁來進寶，山中獵戶進麒麟。
 （貴池本 183 頁下段 B/9）

平身。國正且喜風調雨順，海上漁翁來進寶，山中獵父進麒麟。（富春堂本 6B/9）

⑩

[王白]

卿寡人昨夜得一夢，夢見一小將，身穿紅袍，手執飛刀，將寡人擲在淤泥珂中。後遇一小將，身穿白袍，素甲，手執方天戟，連珠三箭，射退那人，救起我來。我當時一托扯住，問他那里人氏，他也不說。他只說傘字繞三繞，三點如三鎗，一出午門，白蛇擅路。卿此夢若何。

(貴池本 186 頁上段 B/7)

[王云]

衆臣可以議論，又一件。寡人三更時候，夢見一將身穿紅袍，手執飛刀，自來自去。寡人廝戰敵兵，以隨泥間。后有一將身穿白袍手執連珠箭，射退遼兵救得我。當時扯住那將衣褶，問他家住在那里。他說道，他家住傘字繞三繞，三鎗点三点。白蛇攔住午門。此夢若何。

(富春堂本 7B/7)

⑪

聖旨一到，跪听宣讀，皇帝招曰（貴池本 187 頁下段 B/4）

聖旨已到，跪听宣讀，上天眷命，皇帝詔曰（富春堂本 10A/2）

⑫

恐怕日后夺了我的权柄去了（貴池本 188 頁下段 A/9）

可不奪了我的權柄。（富春堂本 14A/5）

⑬

[下白]

稟老爺，馬為何不行。

[茂白]

我这馬有三不行。

[下白]

那三不行。

[茂白]

遇宝贝不行，遇怪物不行，遇貴人不行。你与我橋下看来。（貴池本 189 頁上段 A/4）

[末云]

稟老爺知道，前軍不能行，馬不能走。

[外云]

手下，馬不走有解，合遇貴人。人不行合遇金良（銀）

寶貝。軍馬不走合遇妖魂鬼怪。子細搜檢看。（富春堂本 15A/10）

⑭

心中常存打虎性，便是撻（擒）龙搯虎人。
人却無心來害虎，虎偏有意來傷人。（貴池本 189 頁下段 B/1）

胸藏打虎心，袖腿拿龍膽。
人無害虎心，虎到有傷人意。（富春堂本 16B/4）

⑮

□□恤苦念貧窮，
今日收留運轉通。
一夜浮萍歸大海，
人生何去不相逢。（貴池本 189 頁下段 B/9）

憐孤恤苦念貧窮，
今日收留我運通。
二葉浮萍歸大海，
人生何處不相逢。（富春堂本 17A/5）

⑯

常道養軍千日好，
果然用力一朝難。（貴池本 190 頁下段 B/3）

[雙勸酒]

常言道養兵千日，用在一時。（富春堂本 19A/4）

⑰

[仁唱]

烏風黑暗遮天地，上界天神及地祇。
威風凜凜人驚怕，個個人人要小心。
小軍們有你與我天地間，加一聲聲炮響，軍令歸依。
二點西方庚辛金，白旗白号管三軍。平生馬上威風打，炮響人人要用心。
小軍們有你與我天地間，加一聲聲炮響，軍令歸依。
一點東方甲乙木，青旗青号領三軍。腰間繫條絲羅帶，遵依号令盡搖旗。
小軍們有你與我天地間，加一聲聲炮響，軍令歸依。

三点南方丙丁火，红旗红号逼（必）三军。英雄凛凛人驚怕，天神降地斬妖精。
 小军们有你与我天地间，加一声声炮响，军令归依。
 四点北方壬癸水，黑旗黑号黑马车。天差四位施谋将，凭着干戈掃地塵。
 小军们有你与我天地间，加一声声炮响，军令归依。
 五点中英（央）戊己土，黄旗黄号镇三军。托他安在中軍帳，呐喊搖旗要用心。
 小军们有你与我天地间，加一声声炮响，军令归依。（貴池本 191 頁下段 A/5）

[耍孩兒]

烏雲黑暗遮天地遮天地，上界天神下地祇，威風八面人驚懼一個扎鼓一個扎旗。
 乙點東方甲乙木甲乙木，青旗青號人馬摧，平生志氣撚天地，一聲炮響軍令販衣。
 二點西方庚辛金庚辛金，白旗白號白衣，腰間綰着獅鬘係，尊依號令納（訥）喊搖旗。
 三點南方丙丁火，紅旗紅馬紅號逼，人人勇猛施謀計，天神降下斬妖除迷。
 四點北方壬癸水壬癸水，黑旗黑號人馬催，天差四將臨凡世，憑着英雄將士，掃盡塵飛。
 五點中央戊巳土戊巳土，五五二十五面旗幟，雜色人驚懼，興功者賞，違令者命喪須臾。
 （富春堂本 24B/9）

⑱

平生豪气冲天地，大小三军听我言。
 遵依号令取还陈，個個人人要小心。
 真正小军来拱手，稟了總爷放宽心。（貴池本 193 頁上段 A/1）

[耍孩儿]

平生豪氣冲天地冲天地，大小三軍聽指揮，遵依號令休違背。人人要秉心正直，一個個拱手販依。
 （富春堂本 25B/5）

⑲

聞知巴廖二宗將，有勇無謀計可行。
 生擒巴顏皆拱手，擂鼓懸羊入鳳城。（貴池本 193 頁上段 B/2）

[遼水令]

曾聞巴家將廖家兵，有勇無謀智，
 殺取葛蘇文，生擒巴彥，只教他拱手來順取鳳城。（富春堂本 27B/4）

⑳

[仕白]

圣上说道，这等风狂浪大，怎生是好。快设计来

[仁白]

稟我主，圣上乃是真明天子。四海龙王俱已来朝拜。只要□□□（我王写）下免朝二字抛下水，海浪即止。（貴池本 193 頁下段 B/9）

[浄]

當今把身不定。快説計較來。

[生云]

老爹不要驚懼。當今真名天子，五湖四海龍王來朝，若要平靜，寫免朝二字丟下水去，龍王見了，就不來朝。（富春堂本 32A/9）

このように、文章が対応している箇所が 20 か所ほどある。見逃した対応する文章は、もっとあるかもしれない。

また実際には、場面の対応関係も存在する。以下、「貴池本薛仁貴」と「富春堂本薛仁貴」との場面の対応関係を示してみると、次のようである。「貴池本薛仁貴」は、一つ一つの場面を「出」と記し、「富春堂本薛仁貴」はそれを「折」と記しているので、これに従う。

貴池本	：	富春堂本	貴池本	：	富春堂本
1 出	：	1 折	9 出	：	7 折
2 出	：	2 折	10 出	：	10 折, 11 折
3 出	：	3 折	11 出	：	11 折, 12 折
4 出	：	4 折, 5 折	12 出	：	13 折
5 出	：	6 折	13 出	：	15 折
6 出	：	6 折	14 出	：	17 折, 19 折
7 出	：	6 折	15 出	：	16 折
8 出	：	9 折	16 出	：	

「貴池本薛仁貴」と「富春堂本薛仁貴」との場面の対応の仕方は、不規則な場面も出てくるが、大まかには対応している。ただし、「貴池本薛仁貴」の 14 出の「過海計」の場面と、15 出の「平遼論」の場面の順番は、「富春堂本薛仁貴」と逆になっている。現存の「富春堂本薛仁貴」は、第 1 折から第 20 折までの上巻と、第 21 折から第 46 折までの下巻に分かれている。「貴池本薛仁貴」は、ほぼこの上巻に相当する内容である。

(5) 「貴池本薛仁貴」と『説唐後伝』本薛仁貴

小説として『隋唐両朝史伝』は、刊記に万暦 47 (1619) 年とあるので、『説唐後伝』より古い。しかし、薛仁貴に関する叙述は、ほとんどない。話の流れも、薛仁貴物語より大きく異なっているので取り上げない。『説唐後伝』は、『古本小説集成』の徐朔方の解説によれば、乾隆 3 (1738) 年の姑蘇緑慎堂刊本が一番古いそうである。しかしこの『説唐後伝』は、相当長期にわたって流行したらしく、大塚秀高『増補中国通俗小説書目』によれば中国国内だけでなく国外でも多数の所蔵が記録されている。清朝の中期以降、全国で相当に読まれた作品といえよう。

『説唐後伝』本薛仁貴は、第 12 回以降に、薛仁貴物語と共通したものが展開する。それは、ほぼ「富春堂本薛仁貴」と同じである。そうではあるが、「貴池本薛仁貴」と共通する文は、見つけれない。「貴池本薛仁貴」に、『説唐後伝』本薛仁貴は何の影響も与えていないといえる。

5. 小結

これまで検討してきたことを基に、「貴池本薛仁貴」に関する所見をまとめてみたい。

(1) 「貴池本薛仁貴」の真偽問題について

「貴池本薛仁貴」について、疑うことができるとしたら、1920 年代に書かれたのではないか、あるいは成化本が発見された 1970 年代以降書かれたのではないかという疑念である。

まず、1920 年代ごろに書かれたのではという疑いは、貴池本薛仁貴が 1920 年代の当時の教科書の紙に包まれていたからだ。もう少し時期を広くとれば、清国末年民国初年あたりではないかということである。そうだとすると、一つ大きな矛盾が出てくる。清末民初であれば、小説の『説唐後伝』が、広く流行していたはずである。『説唐後伝』の版本は、第 4 章で述べたように、今でも多くの図書館に所蔵されている。「貴池本薛仁貴」の作者が手元に、それもほとんどあり得ないことだが、幸運なことに「成化本薛仁貴」と「富春堂本薛仁貴」を所蔵していたと仮定しよう。しかしそれでも、なぜ当時広く流行していた『説唐後伝』を無視して、このような古くさい成化本と富春堂本という二本によって、わざわざ貴池本薛仁貴を創作しなければならなかったのか。『説唐後伝』の痕跡が、貴池本にまったく見えないというのは、不思議である。

もう一つは、「貴池本薛仁貴」は、「成化本薛仁貴」が発見された 1970 年代以降、偽作されたのではないかという疑問である。1970 年代に、戯曲研究の情報に詳しくまた財力がある人物がいて、発見された成化本の影印を早速手に入れて、それを富春堂本と合わせて、「貴池本薛仁貴」を作成したのではないかという疑問である。「成化本薛仁貴」は、上海の嘉定県の墓から発掘されるまで、その存在も知られていなかった本である。その後 1970 年代に影印版が出版されたが、部数は数百部程度で相当に少

なかったはずである。また、富春堂本の戯曲も、相当に希少なものである。私を知っているのは、台湾の国家中央図書館と日本の京都大学図書館の所蔵などごく少数である。『古本戯曲叢刊』初集に影印本が収められている。しかし、『古本戯曲叢刊』初集も、1970年代に簡単に見ることのできる本ではなかった。ともかく仮に70年代以降に、影印の「成化本薛仁貴」と「富春堂本薛仁貴」とを利用して貴池本薛仁貴を作成したとしよう。そうするとやはり、いくつか矛盾が出てきてしまうように思われる。まず、成化本の使い方が、あまりに稚拙だということである。例えば、本稿第4章の(2)『「貴池本薛仁貴」と「成化本薛仁貴」』の①②③④で挙げているように、②と③④は、同じ箇所を不規則に重複している。成化本の影印を見ながら新しく作成したというのであれば、このような稚拙なことはしないように思われる。

また、「貴池本薛仁貴」の作成は、基本的に富春堂本を使って作成したはずである。本稿第4章の(4)の分析で見たように、富春堂との一致点が最も多いからである。富春堂の上巻をもとに作成したとも考えられる。そうであれば、そこで述べたように「貴池本薛仁貴」の14出の「過海計」の場面と、15出の「平遼論」の場面の順番は、「富春堂本薛仁貴」と逆になっている点が、矛盾するのである。富春堂本を下敷きにしているのであれば、なぜ最後の14出と15出において、突然順番を逆にする必要があるのか。そもそも、論理的に考えて「平遼論」が先に来て、その後に「過海計」が後に来るのが自然であるのに、わざわざ順番を逆にする必要があるとは思えない。この矛盾は、何百年と伝承される中で、村人が物語の内容を十分に理解していなかったことが原因で、場面の順番を逆に伝承してしまったと考える方が自然である。「貴池本薛仁貴」が、清末民初以降から現在までの時期に、偽作されたとすることには、無理があると私は結論せざるを得ない。

(2) 「貴池本薛仁貴」の成立時期と、原「富春堂本薛仁貴」

それでは、いつ頃「貴池本薛仁貴」は成立したのだろうか。本稿の第4章では各版との比較をしてみた。清朝中期に成立した『説唐後伝』本薛仁貴の影響が、全く見られないことからそれ以前と考えるのが自然である。最も類似した文章があるのは、「富春堂本薛仁貴」である。内容的にも、「貴池本薛仁貴」がちょうど「富春堂本薛仁貴」の上巻に相当する内容であることから、それは証明できると思われる。その次には、「成化本薛仁貴」と共通する文章が多い。「貴池本薛仁貴」は、基本的にこの二つの版を淵源にしている。

では、「富春堂本薛仁貴」は、いつ成立したのか。通常富春堂刊行の戯曲は、明末と考えられている。台湾の国立図書館に所蔵される『玉玦記』4巻には、万暦9(1581)年の刊記がある。これ以外の本には、出版年の刊記がないのでよくわからない。しかし富春堂で刊行された本は、おおむねこれとあまり離れていないころのものと思われる。したがって「富春堂薛仁貴」の出版も、万暦年間と考えられる。

そうすると「貴池本薛仁貴」の淵源である万暦年間の「富春堂本薛仁貴」と、成化年間の「成化本薛仁貴」では100年以上離れていることとなる。これほど離れた年代に刊行された本が、一つにまと

められて「貴池本薛仁貴」となったと考えるのは、実に不自然と言わざるを得ない。

そこで、嘉靖年間出版の「風月錦囊本薛仁貴」が注目される。第4章の(3)で明らかにしたように、「風月錦囊本薛仁貴」は、「富春堂本薛仁貴」の第31折と本文がほぼ一致していた。嘉靖32(1552)年の刊記のある『風月錦囊』は、散齣集である。既存の刊行されている戯曲の版から、適当な箇所を抜き出して「選集」を作ったものである。とするならば、万暦年間に出版された「富春堂本薛仁貴」には、嘉靖年間以前に成立した原本「富春堂本薛仁貴」というべき版が存在していたとも考えられる。成化年間(1465～1488)の次は弘治年間(1488～1506)、その次は正徳年間(1506～1522)、そして嘉靖年間(1522～1567)となる。そうすると、「成化本薛仁貴」と原本「富春堂薛仁貴」との間は、多くとも50年ほどである。

「成化本薛仁貴」が成化7年に刊行されて、それから数十年後に原本「富春堂本薛仁貴」が刊行され、それらをまとめて「貴池本薛仁貴」が成立した。そう考えるならば、時間の流れとしては、自然になる。詩讚系演劇である「貴池本薛仁貴」は、明代の中期には成立していた。

私は以前から白兔記も研究している。その版を研究しているとき、地方戯である青陽腔の民間に残存する劇本と、富春堂の白兔記の文章が類似していることを指摘したことがある⁽¹⁰⁾。このときは、富春堂本の刊行が万暦年間であることを少しも疑っていなかった。今から考えると問題があったかもしれない。それはともかく、地方戯曲の民間に残存する劇本と、富春堂刊行の戯曲の文章が類似していることを発見したのは、二度目である。

富春堂本の戯曲は不思議なことが多い。それらは、また別の機会に考究するつもりである。ともかく「富春堂本薛仁貴」の成立は、ふつう考えられているよりも、ずっと古く嘉靖年間以前の可能性もある。

(3) 詩讚系仮面演劇としての「貴池本薛仁貴」

私の知る限り「詩讚系」というのは、葉徳均が「宋元明講唱文学」(1952年初出、『戯曲小説叢考』所収)で説明したものである⁽¹¹⁾。これは「楽曲系」と対応するものである。詩讚系講唱文学というのは、七言句・十言句・五言句などの、同じ字数の句を長く連ねて故事を展開するものである。齊言体ともいわれる。これに対して、楽曲系講唱文学というのは、長短不揃いの句を連ねて故事を展開していくものである。楽曲系講唱文学としては、諸宮調がよく知られている。話本も、その一形式ということもできる。詩讚系講唱文学というのは、「涯詞」「陶真」があるとされるが、一般的にはあまり知られていなかった。もちろん『大唐秦王詞話』もあったが、それは明末のものとして知られていた。ところが何度も述べるように、上海の嘉定県の墓から「成化説唱詞話」が発見されるに及び、明代の初期に詩讚系講唱文学が大量に出版されていたことが認識されるようになった。しかしこれらは、講唱文学であるから、戯曲ではなく語り物である。

これとは別に、1980年代となり中国の学会も齊言体の戯曲である「梆子腔」に注目し、討論会も開かれるようになり多くの論文が発表されるようになった⁽¹²⁾。また孟繁樹の『明清戯曲珍本輯選』⁽¹³⁾、

『中国板式変化体戯曲研究』⁽¹⁴⁾などが発表された。孟繁樹の研究は、地方戲の秦腔を取り上げ、明末の抄本「鉢中蓮」伝奇の中の「西秦腔二犯」の曲が七言齊言体になっていることなどから、板式変化体（通常は梆子腔と呼ばれる）の成立を論じた。このころから、詩讀系説唱文学から梆子腔が形成される道筋が論じられるようになった。

本稿の本文分析で新たに分かったことは、詩讀系演劇つまり齊言体の演劇が、必ずしも詩讀系の説唱文学だけから生まれるのではないということである。「貴池本薛仁貴」の主要な淵源は「成化本薛仁貴」もあるが、「富春堂本薛仁貴」もあるからである。「富春堂本薛仁貴」は、楽曲系演劇である。

本稿で取り上げている「貴池本薛仁貴」は、詩讀系の演劇である。語り物の説唱文学の本文を、そのまま使って演劇にしたものである。例えば185頁の上段一行目のセリフは鮮明でないが、順番から言えば、王自身のセリフである。それは、次のようである。

「□（王）白」

太宗見奏，龍顔大喜，就将燕国□□（公之）子駙馬薛万，封为開路先鋒。胡敬德。

王というのは太宗のことである。太宗が自分のセリフに「太宗見奏，龍顔大喜（太宗は奏上を聞いて、とてもお喜びになった）」と述べている。これは明らかに語り物や小説の叙述の3人称の文体を、そのまま演劇に転用しているので、このような不思議なセリフとなっているのである。このような叙述の文体をそのまま用いた演劇が、具体的にどのようなものであるか私は池州市劉街郷源溪村の曹姓の村落で調査したので、その時の写真を右頁に示してみる。

これは、2013年の元宵節の儺戲の上演を調査した時のものである。右頁の写真は、「孟姜女」劇の一場面である。二枚の写真を通じてわかるのは、役を演じている村人は、大きな仮面をかぶって、指定された場所に立つか、あるいは座るかしているだけである。歌やセリフは、後ろの机に腰かけている別の村人が、台本を読み上げることで代行される。簡単なメロディが、何度も繰り返され、それに合わせて台本を読み上げ歌うのである。それだけで、場面が進んでいく。これだけ大きな仮面を被っていれば、複雑な動きはできない。場面転換の時には、また別の村人が、仮面を被った村人を引っ張って出たり入ったりさせるのである。新しく場面に入った村人も、決まった場所に連れていかれるだけである。

これは、考えられる限りで、最も原初的な仮面劇ではないであろうか。私の分析では、「貴池本薛仁貴」の仮面戲は、明代中期以降演じられ続けてきたと思われる。



(4)「貴池本薛仁貴」の劇本の伝承について

「貴池本薛仁貴」の本文について分析を行った結果、明代の中期ごろに成立したのではないかと推測した。遅くとも富春堂本の刊行された万暦年間の明末である。しかしその後、現在に至るまで四百年以上同じ劇本が伝えられるということがあるだろうか。

劇本の伝承には、音による伝承と、文字による伝承の二種類がある。まず音による伝承を挙げてみる。次に引用するのは、同じ安徽省で1950年代に収集された徽州抄本の「白兔記」の短い一文を引用したものである。⁽¹⁵⁾

停林花号受苦辛，因袭红袍，再娶岳氏妻。(28折)

これだけであれば、全く意味の通じない文章である。これを対応する『歌林拾翠』に引用される『白兔記』の本文で、意味の通る文章に校正すると、次のようになる。

提铃喝号受孤恤，因失红袍，再娶岳氏妻。(夜警として鈴を鳴らして夜回りをしているときとても惨めな思いをしていた。ところがその後赤い服をもらったことが縁で、岳氏の娘を二人目の妻とすることができた)

両方を比べてみると、字そのものは異なっているが、一文の音声は類似していることが分かる。これは、この劇本が演劇の芸人によって伝承されたのが原因と思われる。専門の芸人であるから、ある程度忠実に劇本を伝えている。しかし当時の芸人は十分な教育がなかったので言葉の意味が理解できないまま、音だけを伝承した。その結果最初に示した意味のよく通じない不思議な文章が残ったと考えられる。

では「貴池本薛仁貴」の場合はどうであろうか。次に掲げるのは、池州の村落で儺戯の調査中に、村人から見せてもらった劇の台本の写真のほんの一部である。池州儺戯を上演する村々は、集落や宗族によって異なるが、それぞれに代々台本を大切に伝え保存している。次頁の写真は、相当古い未整理のままの抄本である。次頁の写真は、整理されてきれいに印刷されているようである。

ともかくこの地域では、代々村人が大事に劇本を文字として伝承している。それでも、文化大革命中に失われたものも少なくないらしい。また、新中国になってから急速に儺戯が上演されなくなっていった。したがって、それぞれの劇本が、どれほど古い姿をとどめているかは、それぞれ本文をよく検討してみなければならないだろう。

「貴池本薛仁貴」についていえば、1920年代まで基本的に忠実に文字によって伝承されて、それが王兆乾氏によって発見されたということであろう。

文字による伝承を示している部分として、184頁上段B7行目の一文を挙げてみる。

多多拜上小秦王，来年八月混唐拜（邦）。



第一冊報台

正月元宵是上元。家家戶戶慶新年。人人說到春光好。盡是風花雪月天。且喜三陽開泰。時逢佳節元宵。嚶嚶戲會聚還高。保佑人財吉又兆。(朝上作揖白)拜問後堂子弟。今夜扮演誰家故事。哪本戲文。(後堂白)千家景。(生白)好矣。包公陳州賑濟饑。蓋女千里送寒衣。收伏西梁黃太尉。百花劉氏故還回。劉公無主聽讒言。媳婦蕭氏口良言。做保為媒羅氏女。衣錦還鄉劉狀元。

これは、「成化本薛仁貴」2A では次のようになっている。

再三傳示小秦王，今年不來歸順我，來年八月昆唐邦。

これは、「富春堂本薛仁貴」5B では、次のようになっている。

再三上伏小秦王，來年八月叛唐邦。

「成化本薛仁貴」は「昆唐」，「富春堂本薛仁貴」は「叛唐」，「貴池本薛仁貴」は「混唐」としている。文字としては、「成化本薛仁貴」よりは読みやすくなっているのは確かである。このように「貴池本薛仁貴」の伝承が、文字によって行われたのは、この劇が中国の農村社会に支えられていたからだと思われる。

注

- (1) 福満正博「中国近世戯曲小説中の異体字研究(6) 一元刊本・新刊の本『薛仁貴衣錦還郷』関目全一」(『明治大学教養論集』第500号, 2013年9月)。
- (2) 1984年, 学習院大学東洋文化研究所影印本
- (3) 千田大介「薛仁貴故事変遷考」(『中国文学研究』第17期, 1991年), 柴崎公美子「清朝宮廷演劇における「薛丁山」物語の受容——「金豹記」物語の変容を通じて」(『日本アジア研究』第11号, 2014年)等も参照されたい。
- (4) 財団法人施合鄭民俗文化基金会, 1993年
- (5) 本稿では『古本小説叢刊』第26輯所収の影印を使用した。
- (6) 中華書局, 1982年
- (7) 中華書局, 1996年
- (8) 中華書局, 2009年
- (9) 『薛仁貴征遼事略』後記(1957年, 古典文学出版社)
- (10) 「安徽省青陽腔<白兔記>与富春堂本, <風月錦囊>本白兔記」(『戯曲研究』2013年)
- (11) 『戯曲小説叢考』(中華書局, 1979年)
- (12) 『梆子声腔劇種學術討論會文集』(山西人民出版社, 1984年)等。
- (13) 中国戯劇出版社, 1985年。
- (14) 天津出版社, 1991年。
- (15) 刁均寧『青陽腔戯文三種』(財団法人施合鄭民俗文化基金会, 1999年)

《薛仁貴征東》

貴池清溪郷張村汪必成原藏本 / 王兆乾提供

一名《打虎》

丹凤来年宇宙春，
中天雨露回时春
世上好事惟

(一出) 「開」

開場

丹凤来年宇宙春，
中天雨露四特新。
世上好事惟忠孝，
臣报君恩子孝親。
薛仁貴功劳显达，
唐天子御駕親征。
昔日唐王李世民，
梦中忽遇裴一（白衣）人。
栽花种柳秦叔宝，
遇（好）打□□（三鞭）鄂国公。

二出 「賞花」

风从花孕我含羞。
(衍文)

.....

小生姓薛，名仁貴，家住絳州龍門縣，□□□□□□□□□□，自幼功書功名未遂。不知何日，得上雲梯。□□獨守寒窗，（幼習）三略法，胸臆六韜書，今日春景融和，百花開放，不免請出娘子，同賞片

时，有何不可。娘子那裡。

[旦白]

来已。

[生白]

娘子拜已。

[旦白]

秀才万福。

[生白]

娘子请坐

[旦白]

秀才同坐。秀才唤出妾生，有何甚事。

[生白]

非为别事，今日春景融和，百花开放，请出娘子，仝赏片时，有表夫妇之情。

[旦白]

妾身奉陪。

[仁贵唱]

春景融和百花放，
只见园中满树香。
粉蝶双双来游戏，
紫燕忙忙绕画梁。
王生（孙）公子都玩赏，
可叹人生有幾何。
佳人才子同来戏，
夫妻一对赏花人。
光阴似箭催人老，
日月如梭趁少年。

诗

轻行细步出蘭房，
玩赏□□□□□。
水响石边流出冷，
风從花孕我含羞。

三出「舞回回」

白

小人去的

[太子白]

達達一个回回？

帽，身穿車里衣，□□正正□□□□馬，打战鼓咚咚撤撤，喜笑一个□□□□，一个马里，马里一个，沙里，天上心□□□明，塘里鱼多水不清，朝内官多乱又法□，□外妹郎多乱了心，駭也駭之坤，月裡梭桐甚麼何人栽，九曲黄河是何人，開甚么人，北边托住三関栽，是何人哭哭啼啼，何着放未（来），

[小達唱]

月裡梭桐李老君栽，

九曲黄何老龙王開。

楊太郎北边托住三関塞，

李巨門哭哭啼啼何着放来。

[老達白]

達達回回生外国，

□（蛮）夷落落出南朝。

这回若領安邦净（静），

方顯男儿志气高。

自家伯齐国伯牙太子是也。父王当年许下唐朝三般宝贝，至今未曾進贡到唐朝去。手下的。

[《手下白稟》]

有。

[太子白]

殿下，可有人到唐朝去。

[手下白稟]

我主，祇有昌黑非（飞），貫走唐朝，

[生白]

金牌皂，良牌选，就选昌黑飞上殿。

[手下白稟]

我主，昌黑飞一到，有何吩咐

[太子白]

非为别是。我今差你，進贡宝贝，到唐朝去。你可去的。

（黑飞白）

小人去的

[太子白]

我道来，

達子《唱》

太子当时将言谈，

黑飞听我说□□（原因）。

你今進贡唐朝去，

宝贝献上圣明君。

若得唐王收了宝，

回来报说原何因。

[黑飞《唱》]

黑飞拜别主人去。

太子不必苦又心。

小人领了三般包，

一心只要往前行。

[诗]

三般宝贝献明君，

願取唐朝纳献文。

從此四方皆立正，

当今万代一乾坤。

四出 「蓋苏文夺宝」

[苏文唱]

不唱太中唐帝主，

听唱苏文作反人。

耐耐犬邦无道理

不将宝贝献吾身。

便叫手下忙不住，

点将兴兵杀唐军。

手下《唱》

托他人马都杀尽，

就等我主镇乾坤。

[苏文白]

自家高丽国，姓葛名苏文是也。听得伯齐国伯牙太子，差人进贡宝贝往唐朝去。不免在此立寨为寇，

夺了他的宝贝，有何不可。

黑飞（唱）

高正头戴乌纱帽，

身穿紫罗袍。

腰间紧得黄縞葛带，

脚踏掌朝靴。

手内捧得三般宝贝，

却乃是进贡唐朝。

行一里来又一里，

去一呈来又□□。

一呈来到唐界地，

一心只要往前行。

[手下白]

你这汉子往那里去的，姓甚名谁。

[黑白]

我是伯齐国伯牙太子差小人，昌黑飞進贡宝贝，到唐朝去的

[手下白]

伙难（男）们带住了。代祝稟千岁爷爷，稟我主，外方有一汉子口口声声要问唐朝去。

[苏文白]

手下的。

[手下的白]

有。

[苏文白]

你与我令其带進。

[手下白]

令其带进。

[苏文白]

你这汉子往那里去。

[黑飞白]

我往唐朝去的。

[苏文白]

我这就是唐朝。

[黑飞白]

我（你）却不是唐朝

[苏文白]

你手内捧得是甚么。

[黑飞白]

三般宝贝。

[苏文白]

那三般宝贝。

[黑飞白]

下西明月连珠绿酒盏。

[苏文白]

果然好宝。

手下的。

[手下白]

有。

[苏文白]

将宝入库。

[手下白]

稟我主为和（何）不進贡吾主，要進贡唐朝。

[苏文白]

此一时好一时蝦蟆挑在蛇头上，自来□衣食。手下的。

[手下白]

有。

[苏文白]

你与我将宝夺下。

[手下白]

将宝入库

[苏文白]

叫那汉子，占（站）立一傍，我今低头一寸，计上心来，正要修书一封与那唐兕交战，不免与这汉子带去，

有何不可。

[手下白]

稟我主，恐这汉子臧了，不免将火笔刺他面上

[苏文白]

道法有理，将火笔过来。

[手下白]

火笔在此。

[苏文唱]

耐耐唐天子，
贪财世不休。
杀兄在前殿，
囚父後宮愁。
饶你江山廣，
通無世百州。
吾当出一阵，
遍地血澆流。

又句

[手下白]

禀我主面上刺满了，背上还要刺他几行。

[苏文白]

道得有理，掉过来。

[苏文唱]

多多拜上小秦王，
来年八月混唐拜（邦）。
若还不来归顺我，
点将兴兵到此间。
唐朝何人保秦叔宝，
生擒叔宝交战马。
还有何人胡敬德，
或捉敬德抵刀鎗。
生擒敬德秦叔宝，
活捉长安大唐君。
若还我到长安地
那时晒作放牛場。

[诗]

耐耐唐王太不仁，
不将宝贝献吾身。
点将兴兵千百万，
要夺唐王花錦城。

五出 「做奏事」

[武官，诗]

马跨金鞍将着袍，
九霄门外月兒高。
南兕要挂封侯印，
常在要中带血刀。

[武官白]

我乃武官是也。吾王登殿在此伺候。

[文官，诗]

淡月疎星繞建章，
仙风吹下御炉香。
待臣鹄立通明殿，
一朵红云捧玉皇。

[文官，白]

我乃文官是也。吾王登殿在此伺候。

[文武，同诗]

左边打起龙凤鼓，
右边撞動紫金钟。
龙凤鼓响文官到，
紫金钟响武官齐。
文武两班齐来到，
山呼万岁拜丹墀

[文武，同白]

啟奏我王万岁。

[王白]

平声。

[文武同白]

万岁万万岁，自从我王登殿一十八载，天下太平，诸国来朝，海上鱼翁来進宝，山中猎户进麒麟。海外有一国，有一个高丽国。东有四国，一个新罗国，一个危罗国，一个归矾国，一个伯齐国。今有伯齐国伯牙太子，差人進贡宝贝，在午朝门外。無旨不敢枉進。

[王白]

胡敬德

[敬白]

臣有

[王白]

吩咐，殿前文武带刀指挥，弓上弦，刀出鞘，将来旨押上金銮。

[敬白]

吩咐，殿前文武带刀指挥，弓上弦，刀出鞘，将来旨押上金銮。

[文武同白]

押上金銮。

[黑飞白]

啟奏我王万岁。

[王白]

平声。

[黑飞白]

万岁万万岁。

[王白]

卿因为何皂沙（紗）遮面

[黑飞白]

帝不知其意，臣该万死。

[王白]

奏上殿来

[黑飞白]

臣到高丽国，啟猛将姓葛名苏文，搶弃宝贝刺满面上

[王白]

胡敬德

[敬白]

臣有

[黑飞白]

去紗看来

[敬白]

啟奏我王，当头耐耐二字臣不敢念。

[王白]

恕卿无罪從头念来。

[敬唱]

耐耐唐天子，

贪财世不休。

煞兄在前殿，

囚父後宮愁。

饶你江山廣，
通吾四百州。
吾当出一阵，
遍地血浇流。

又句

[敬白]

啟奏我王，面上念还了，背上还有几行。臣不敢念。

[王白]

恕卿无罪，仔细念来。

[敬唱]

多多拜上小秦王，
来年八月混唐拜（邦）。
若还不来归顺我，
点将兴兵到此间。
毫兄你也有个尊名
生寻叔宝交战马。
这个小畜生也有一个尊名，
活捉敬德低刀鎗。
生寻敬德秦叔宝，
活捉长安大唐君。
若还我到长安地，
那时晒作放牛场。

（[敬白]）

拿去煞了。

[王白]

□（刀）下留人。

[敬白]

啟奏我王，为何刀下留人。

[王白]

□□夺地年年有，那见煞了送书人，二国相争不斩来使，赐他光禄筵宴，三日照旧放回。

[黑飞白]

谢恩万岁。

[王大唱]

见書来，
怎不叫人，泪满腮。

苏文，何故夺我宝，
反将糊言，起大猜。

(文武同白)

衆臣保驾来，
免得江山坏。

有日里点起兴兵，
廣起三军齐唱凯。

[王白]

胡敬德。

[敬白]

臣有。

[王白]

吩咐，殿前文武有好本陈（陈），奏来。

[敬白]

殿前文武有好本陈，奏来。

(文武同唱)

吾今传与唐帝王，
三台八位论原因。

面刺海東伯齐国，
现今猛将有名人。

托總傅軍都元帅，
宣牌挂印蓋苏文。

厮煞業中为第一，
抡鎗跨马打头名。

吾（五）度兴兵到大海，
三番三（举）意晃天门。

[王白]

太宗龍颜大怒，高丽国好无道理，搶去宝贝，七十辱骂大邦。胡敬德。

[敬白]

臣有。

[王白]

就此点兵前去与他交战。

[敬白]

啟奏我王，臣到……

丽国，生寻猛活捉苏文。

〔□（王）白〕

太宗见奏，颜大欢喜，就将燕国□□（公之）子驹马薛万，封为开路先锋。胡敬德。

〔敬白〕

臣有。

〔王白〕

吩咐殿前文武有好本陈奏来。

〔敬白〕

殿前文武有好本陈奏来。

〔文武同唱〕

忠臣叉手房玄龄，
向前万岁听原因。
昔日遼（场）帝征东去，
损折大半不回呈。
我王不知辽东事，
听臣仔细说原因。
万里南朝征小国，
我主辛苦过辽东。
辽东不比京城地，
物少人稀怎得行。
日出扶桑田地远，
八分三水二分人。
辽东遍损英雄将，
海气能伤大国君。
標刀斬馬盡磨快，
弩箭伤人八九分。
无边海水翻波浪，
有难谁来救主人。
海边犹如活地狱，
辽东赛过鬼閔津。
磨天應地藏猛虎，
浮叠江山怎太平。
山高路远藏贼将，
千員猛将去征東。
君臣平到高丽国，
却是擎天跨海人。

[王唱]

寡人当时心中想，
不勦辽东气怎平。
那怕高丽生反贼，
怕甚辽东姓葛人。

[诗]

一身踏破高丽国，
两手擒拿莫利支。
英雄凛凛扶唐主，
要取辽东立帝基。

六出「托狮子」

[敬唱]

敬德听说眉头皱，
不由烦恼在心坎。
前唐不觉年年乱，
六十四处起烟尘。
李靖阴阳知祸福，
老臣跨马去征东。
吾今到此喙（呼）老弱，
人老之时廣用心。

[王唱]

金銮殿上唐王叹，
两班文武听原因。
那个将军来保驾，
殿前狮子定英雄。
若果有人托得起，
却是擎天保驾人。

[秦白]

老臣保驾。

[敬白]

小臣保驾。

(王白)

二卿不必相争先武后文。

[秦白]

让你去托来。

[敬白]

我去托，就没有你的分了

[秦白]

量你托不起。

[敬白]

金銮殿上跨了口，托得起来也。要托，托不起来也要托。

[敬唱]

挽袖三鞭到殿下，

看看狮子嚇人心。

[白]

俺将左手来撩衣，俺将右手来举起，千斤鼎鼎，好似鱼甩戏，今□上听咱施为。

[秦白]

老夫人，费了好大力。

[敬白]

这也不费某□甚模大力，让你去托来。

[秦唱]

挽袖二□□□□□，

看看狮子嚇人心。

[秦白]

俺将左手来撩衣，俺将右手来幸起，咳咳……

[王唱]

敬德向前忙使力，

轻轻托起走三遭。

叔宝向前忙使力，

咳嗽吐血少精神。

[敬白]

啟奏我主，叔宝有慢君之罪。

[王白]

卿叔宝是寡人爱卿，赐他养病三个月，再来保驾，

[叔白]

谢恩万岁

[王唱]

金銮殿上唐王喜，
好将武艺定乾坤。
我朝敬德真猛将，
那怕苏文作反人。

[诗]

耐耐高丽生反贼，
我国还有好贤臣。
唐朝有个胡敬德，
怕甚遼東姓葛人。

七出「原夢」

[文武同白]

君起早，臣起早，来到朝房，天未晓，长安多少富翁家，
服事君王，直到老。

[王唱]

寡人昨夜归龙帐，
夢中嘶骂葛苏文。
太宗昨夜得一夢，
未知凶吉是何因。
说与两班文共武，
近前解夢保平安。

[王白]

卿寡人昨夜得一夢，夢见一小将，身穿红袍，手执飞刀，将寡人捍在淤泥珂中。后遇一小将，身穿白袍，素甲，手执方天戟，连珠三箭，射退那人，救起我来。我当时一托扯住，问他那里人氏，他也不说。他只说拿字繞三繞，三点如三鎗，一出午门，白蛇擅路。卿此夢若何。

[文武同白]

啟奏我主，殿前文武不解其祥，只有徐茂公，能知阴阳祸福。

[王白]

金牌皂，良（銀）牌宣，就宣徐茂公上殿。

[文武同白]

圣上有旨，宣徐茂公上殿。

[茂白]

接旨朝靴销地响，玉带赛金龙。啟奏我主宣臣何用。

[王白]

卿此夢若何。

[茂白]

啟奏我主，一更思夢，二更想夢，三更應夢。當不知我主，那更得夢

[王白]

卿寡人，正是三更得夢。

[茂白]

此乃是个□□□□□□□□絳字，三点加三鎗是个洲字，一出午門，白蛇擅路，此乃絳洲龍門县人氏。

[王白]

絳洲何人所管。

[茂白]

絳洲知府张仕贵所管。

[王白]

就封张仕贵攔路都總管，勅賜青同（銅）劍一托，束髮冠一頂，招起三軍，不德（得）有为（违）叩闕。

[茂白]

謝恩万岁。

[王唱]

寡人一二依卿奏，
就封仕贵姓张人。
托他封做都總管，
絳洲城裡选雄兵。
若还招得夢裡将，
回来賜爵不非轻。
就差茂公賚圣旨
莫在朝中九住亭

[茂唱]

为臣领了圣旨去，
一心只奔絳洲城。

[诗]

我今差你去招兵，
絳洲城裡要用心。
太平本是将军定，
还要将军定太平。

八出 「分別」

[任白]

小生姓丑（注：丑は雪の略字である。雪は薛の通仮である。以下本文で多く使われる「丑」の字はすべて薛に改める）名仁貴，家住絳州龙门县人氏。听得絳州城内扯得有招軍旗号，我要前去投軍，不免請出娘子，分別一時，娘子那里。

[旦白]

来已。

[生白]

娘子拜已。

[旦白]

秀才万福。

[生白]

娘子請坐。

[旦白]

秀才同坐。秀才喚出妾身，有何甚事。

[生白]

非为別事，听湯絳州城内，扯湯有招軍旗号，我要前去投軍，請娘子，分別一時。

[旦白]

待妻子短送一呈。

[旦唱]

柳氏開言催虎將，
廣交言語告將軍。
你去投軍休恚（挂）我，
我在家中事六親。
出外常存君子道，
离家莫起小人心。
路上野花休要採，
調油弄粉害人精。
常想人家立大業，
殘茶淡酒莫糊吞。
你若得了些微病，
德（得）病無人看你身。
正東過海功勞大，
轉身就受帝皇恩。

金良（银）财宝休去掳，
只求安乐早回呈。
你在家中心欢喜，
你今出外我忧心。
若是长安功名就，
早寄音书到家门。
三贞九烈为大道，
义（万）古流传作话名。

[仁唱]

仁贵说语妻儿听，
柳氏金姐听原因。
听得高丽生反贼，
一心只要去投军。
你在家中随时过，
我去受爵转家门。

[旦唱]

流泪眼观流泪眼，
我夫得胜早回呈。

[诗]

[生白]

分别投军去。

[旦白]

夫君听我言，

[生白]

程投须忍耐。

[旦白]

生容急早回我夫，早去早回。

[任白]

晓得。

九出 「招軍」

[仕白]

做官莫做小，扒起又扒倒，见得公事到，赫德（得）波波跳。手下的。

[下白]

有。

[仕白]

我昨夜得一夢。

[下白]

夢見何事。

[仕白]

夢見一乘龙上天。

[下白]

今日必有好去。

[仕白]

手下的。

[下白]

有。

[仕白]

你与我托守头门，倘有人来急忙通报。

[下白]

晓得，禀老爷，外面圣旨到来。

[仕白]

快摆公案迎接。

[茂唱]

唐王差我催圣旨，
不敢遲言（迟延）九住亭（久住停）。

路上行人都休唱，
前行来到绛州城。

[仕唱]

绛州知府张仕贵，
出来迎接茂公身。

[茂白]

圣旨一到，跪听宣读。皇帝诏曰，我王过海征东，映（因）少英雄猛将，就封绛州知府张仕贵攔路都總管，

刺赐青铜剑一托，束髮冠一顶，招起三军不得有违（违）叩阙。

[仕白]

谢恩千岁，安排圣旨，圣旨上龙亭。

[仕唱]

仕贵一见招書到。

宝香一炷谢皇恩。

[仕白]

国公爷爷在上，卑职叩头。

[茂白]

这也不肖（消）。

[仕白]

直行长礼国公爷爷，後察院宽住几日。

[茂白]

朝衣在身，就此告行。

[仕白]

人来。

[个（下）白]

在。

[仕白]

看天子号，艮字号，送与国公爷上为过山之礼。

[茂白]

这也不肖（消），打道前行。

[仕白]

张仕贵遠送。

十出「招軍」

[仕唱]

唐王差我招軍将，

不敢遲言（迟延）九住停（久住停）。

便叫手下忙不駐（住），

你将皇榜掛诸州。

[仕白]

手下的。

[下白]

有。

[仕白]

你将皇榜掛起。

[下白]

皇榜掛诸州，官差不自由。

俱（惧）罚朝朝□（兴），欺公日日憂。

掛了皇榜回归，回归手执令旗走归龙门。稟老爷，皇榜掛起。

[仕白]

占立一傍，你听着。

[仕唱]

扯起招軍旗一面，

招起天下好英雄。

若还手段高似我，

前来揭榜做将军。

[张，李，薛唱]

行一里来又一里，

去一呈来又一呈。

一呈来到招軍寨，

两傍軍卒乱分分。

[仁唱]

揭得皇榜在手内，

稟门拜将来投军。

[下白]

稟我主，外面有一揭榜之人。

[仕白]

你与我令斯带進。

[下白]

晓得，令斯带進。

[仕白]

你这汉子因何不跪。

[下白]

稟老爷，他跪下了。

[仕白]

呵呵人长有这等大汉子，你这汉子，家住那里，姓甚名谁，如何来得这等几时。

[仁白]

小生姓薛名仁贵，家住绛州龙门县人氏。因路途遥远，故尔遲言（迟延）。

[仕白]

你有什么武艺。

[仁白]

小人有一十八般武，件件皆能。

[仕白]

现有甚么武艺。

[仁白]

现有百步连珠三箭。

[仕白]

何为百步连珠三箭。

[仁白]

百步内安起朶子，头支箭射在朶子上，二支箭射在头支箭尾上，三支箭射在二支箭尾上，名为连珠三箭。

[仕白]

手下的。

[下白]

有。

[仕白]

你与我量開百步，安起朶子，看他手段若何。

[下白]

稟老爷，朶子安起。

[仁白]

看弓箭过来。

[下白]

弓箭在此。

[仁白]

此弓用不得。

[仕白]

又损坏我的军器。看後面铁头弓过来。

[仁白]

此弓方可用。看箭看箭。

[下白]

稟老爷看箭。

[仕白]

头支箭丁（顶）在那过高头。

[下白]

射在朵子上。

[仕白]

二支箭射在那过高头。

[下白]

头支箭尾上。

[仁白]

三支箭射在那过高头。

[下白]

二支箭尾上。

[仕白]

就是本總官也不及他如此手段高强。他叫薛仁贵，我叫张仕贵。两贵必有一强，两强必有一弱。恐怕日後，

夺了我的權柄去了。

[下白]

怎么了。

[仕白]

我有计策，我有道理。只说他穿素衣入我营中，又损坏我的军器。手下的。

[下白]

有。

[仕白]

叫那汉子过来。你穿素衣入我营中。

[仁白]

小人不知军归（规）。

[仕白]

营中不论青红皂白。又损坏我的军器。一人损一张十人损十张。那有许彗军器你损。

[仁白]

力强弓弱。

[仕白]

手下的。

[下白]

有。

[仕白]

你与我折打四十，撵去不用。

[下白]

打之可用。

[仕白]

打之还不用。

[下白]

撵出去，撵出去。

[仕唱]

我今人马都招尽，
与今不用你们身。
便叫手下忙不住，
当撵（单赶）投军姓薛人。

[仁唱]

仁贵两眼双流泪，
如何不用我投军。
那个手段高似我，
前来厮杀定输赢。

[仁白]

远望一阵人马。不知什么官员。不免在桥下梁（躲）避，一时再做道理。

[茂唱]

我王差我催虎将，
不敢迟言（迟延）久住亭（久停住）。
一呈来到高桥上，
马儿立地不行呈。

[下白]

稟老爷，马为何不行。

[茂白]

我这马有三不行。

[下白]

那三不行。

[茂白]

遇宝贝不行，遇怪物不行，遇贵人不行。你与我桥下看来。

[下白]

稟老爷，桥下有一龙。

[茂白]

这等幹天幹地，那有一龙。再去看来。

[下白]

稟老爷，桥下有一虎。

[茂白]

这等平陽占地，那有一虎。仔细看来

[下白]

稟老爷，桥下有一个观子。

[茂白]

此乃是个汉子。这汉子变龙变虎，日後必有好去（处）。你与我带来见我。

[下白]

你这汉子走上來。

[茂白]

你这汉子，穿的衣帽堂堂，如何朶（躲）在桥下则甚。

[仁白]

稟千岁爷爷，小人在张仕贵爷爷那里投军不用，折打四十擗去，在此见千岁爷爷龙驾一到。故尔（而）桥下躲避一时。

[茂白]

你这汉子，家住那里，姓甚名谁。從头说来，带你回去。

[茂唱]

姓甚名谁那里住，
根生原是那鄉村。

[仁唱]

仁贵两眼双流泪，
国公在上听原因。
家住絳洲龙门县，
大王庄上我家門。
我乃姓薛名仁贵，
二十四五正新春。

[茂唱]

国公听得如此话，
便骂仕贵姓张人。
看你本是英雄将，
带你回去赏你军。
耐耐仕贵無道理，
单擗（赶）仁贵姓薛人。

[茂白]

薛仁贵说你没有手段。

[仁白]

小人有十八般（武艺）现现（件件）皆能。现有百步连珠三箭。

[茂白]

既有这等手段高强，为何撵（赶）你出来。

[仁白]

小人不知有何冲犯如他。

[茂白]

我知道了，你叫薛仁贵，他叫张仕贵。两贵必有一强，两强必有一弱。他怕你日后夺了他的权柄去了。

[仁白]

千岁爷爷，就是神仙一般。

[茂白]

打道前行。

[下白]

禀老爷，前面去不得。

[茂白]

怎么去不得。

[下白]

前有一猛虎拦路。

[茂白]

快叫山中猎户到来。

[仁白]

不用猎户，小人前去擒来。

[茂白]

须防仔细。

[仁白]

晓得。

十一出 「薛仁贵打虎」

[仁唱]

心中常存打虎性，

便是撵（擒）龙擒虎人。

人却無心来害虎，
虎偏有意来伤人。
不怕摇头併摆尾，
一时要你命归陰。
剥下皮而遮虎椅，
将你肉儿赏三军。
恼了姓薛名仁贵，
今朝休息入三林。

[下白]

稟老爷，打得虎在此。

[茂白]

这个虎是那过打的。

[下白]

是我打的。

[茂白]

既是你打的，你扛得的起来。

[下白]

哎呀，这虎生了根，还要薛长子来扛。

[仁白]

谁人接虎。

[茂白]

果然有擒之力。打道前行。

[茂诗]

怜孤恤苦念贫穷，
今日收留运转通。
一夜（二叶）浮萍归大海，
人生何去（处）不相逢。

[讨张]

当今赐我管三军，
今日管军不顺情。
招军人马至，
马至定乾坤。

[下白]

稟老爷，徐国公到来。

[仕白]

快摆香案迎接。张仕贵迎接国公爷爷。

[茂白]

张仕贵，你为何来得这等遲言（迟延）。

[仕白]

不敢，不知千岁爷爷走水路而来。小總官打一顶小桥，走捍（旱）路而去。

[下白]

稟老爷说，到了。

[仕白]

不知千岁爷爷走捍（旱）路而来。小總官打一隻小船，走水路而去。

[下白]

稟老爷又说，到了。

[茂白]

敢你官而太做大了，躡下去折打四十张仕贵。

[仕白]

不敢。

[茂白]

军可招其了。

[仕白]

未曾招期。

[茂白]

那军册簿过来我看。

[仕白]

军册簿在此。

[茂白]

一名张打铁，二名李连千，三名王四敖，四名薛元它。映（因）少一名火头军，叫薛仁贵。

[仁白]

在。

[茂白]

你与我用心放马，日後重封官职。

[仁白]

得令。

[仕白]

国公爷爷在上，在我後察院宽住几日。

[茂白]

朝衣在身，就此台行。

[仕白]

人来。

[下白]

在。

[仕白]

看天字号，艮字号送与国公一为过山之礼。

[茂白]

这边不肖打道前行。

[仕白]

张仕贵遠送，遠送。

[报子白]

急报急报，报与摠老爷。知道天有不测之风云，人有但时之祸福。天混地暗罗（锣）名（鸣）鼓响。

前有混天董達作反前来。头有斗大，身有一丈二尺，长（张）口口声声，要收付绛州龙门县人氏。

[仕白]

怎么了，我有计策，我有道理。不免叫薛仁贵前去，收付（伏）与他，傷个混天董達，除了我的外祸。除了薛仁贵，除了我的内祸。薛仁贵那福。

[仁白]

来已。

[仕白]

薛仁贵你前去收福与他，日后重封官职。

[仁白]

得令。

十二出 「舞刀」

[(任) 诗]

今日官差不自由，

赤心保国顯封侯。

男儿到此方成器，

廣取刀头似筆人。

[(董) 唱]

今日马上刀头快，

锣鸣敲响鬼神愁。
 听德（得）仁贵人马到，
 便要黄金买路游。
 若到一声言不肯，
 方天戟下不容行。

[仁唱]

耐耐贼寇无道理，
 生事多端气煞人。
 谁叫挡了咽喉地，
 三合之中见假真。
 仁贵当时高生叫，
 不能饶放你们甚。
 常道养军千日好，
 果然用力一朝难。

[(任)白]

混天董达头戴什么，鍪金□（盔）要他何用，千煞千胜万煞万赢，何不献上，如咱小人自用那去杀了献上。

身上穿的什么，梭子甲要他何用，能隔刀铁，何不献上，如咱小人自用那去杀了献上。

手上那的什么，方天戟要他何用，不怕人马斡在淤泥河中一齐跳起，何不献上，如咱小人自用那去杀了献上。

大步内骑的什么，龙车马要他何用，水火能行，何不献上，如咱小人自用那去杀了献上。

胚内藏的什么，天文地理图要他何用，能过千山万水可起风皇城羊蹄擂鼓饿马嘶啼，何不献上，如咱小人自用那去杀了献上。

手下。

[(下白)]

有

[(任白)]

快掳，总老爷之道。

[(诗)]

招军人马至，
 马至定乾坤。
 路途擒猛虎，
 方至得人力。

十三出 「摆龙门陈」

[王唱]

同行六親能言语，
隨後十二恶将军。
耐耐苏文生巧计，
帝主唐王衛驾临。
唐朝敬德兵百万，
要杀苏文作友人。

[王白]

天子点兵百万，占（点）将千員，千開宝库，将金良（銀）尽賞与衆軍。张仕贵。

[仕白]

不敢。

[王白]

明日教场操演点兵出陈。大小三军只许向前，無许退後。向前者有赏，退後者梟首示众。

[王白]

胡敬德。

[敬白]

臣有。

[王白]

寡人闷坐中軍帳。要看一龙门陈，立刻摆来。

[敬白]

谢恩万岁。张仕贵。

[仕白]

不敢。

[敬白]

圣上有旨，要看一龙门陈，你一时摆来。

[仕白]

国公爷爷，小總官是文不知武畧。

[敬白]

走，谁叫你寿（受）了武戩（职）。好好一時做来，再若遲言（迟延）敢則一鞭。

[仕白]

限小人三个月。

[敬白]

走，一時摆来。

[仕白]

我見那里。

[仁白]

小人在后院听我主呼文（问），即忙到我主跟前，不知有何吩咐。

[仕白]

我見那里知道，我王要看一龙门陈。你可知道。

[仕白]

□（我）畧知一二。稟我主龙门陈不知紧要。紧要五色旗号，一百二十五面火炮，俱要齐備。

大小三军听我分付。

[仕白]

听我分付。

[仁白]

听你吩咐，你去摆来。

[仕白]

好好，就听你吩咐。

[仁白]

大小三军，只许向前無许退后。向前者有赏，退後者梟首示众。

[高廷]

[仁唱]

烏风黑暗遮天地，

上界天神及地祇。

威风凜凜人驚怕，

個個人人要小心。

小军们有你与我天地间，加一声声炮响，军令归依。

二点西方庚辛金，

白旗白号管三軍。

平生马上威风打，

炮响人人要用心。

小军们有你与我天地间，加一声声炮响，军令归依。

一点东方甲乙木，

青旗青号领三軍。

腰间繫條丝罗带，

遵依号令盡搖旗。

小军们有你与我天地间，加一声声炮响，军令归依。

三点南方丙丁火，

红旗红号逼（必）三军。

英雄凛凛人驚怕，

天神降地斬妖精。

小军们有你与我天地间，加一声声炮响，军令归依。

四点北方壬癸水，

黑旗黑号黑马车。

天差四位施谋将，

凭着干戈埽地塵。

小军们有你与我天地间，加一声声炮响，军令归依。

五点中英（央）戊己土，

黄旗黄号镇三军。

托他安在中軍帳，

呐喊摇旗要用心。

小军们有你与我天地间，加一声声炮响，军令归依。

[仁白]

禀我主，龙门陈摆还了。

[仕白]

还有龙头龙尾。

[仁白]

俱已摆还了。

[仕白]

我儿，吃饭眼上工夫。千岁爷爷龙门陈摆还了。

[胡白]

还有龙投龙尾。

[仕白]

俱已摆还了。

[胡白]

岂不知请那位师父传叫（教）于你。

[仕白]

寔寔（实）小人摆的。

[胡白]

既是你摆的，待我奏过圣上，再来领赏。

[仕白]

谢恩千岁。

[胡白]

啟奏我王观陈。

[王白]

龙门陈摆都摆的好，不知裡面虚实若何。你与我從摆一阵。

[胡白]

张仕贵。

[仕白]

不敢。

[胡白]

我王说道，龙门陈摆都摆的好，不知裡面虚实若何。你与我從摆一阵。

[王白]

胡敬德。

[胡白]

臣有。

[王白]

去到那一门，为何飛沙走石，是何道理。

[胡白]

张仕贵。

[仕白]

不敢。

[胡白]

我王说道，那一门为何飛沙走石，是何道理。

[仕白]

我見那里。

[仁白]

小人听得我主呼文（问），即忙到我主跟前，不知有何分付。

[仕白]

我王说道，那一门为何飛沙走石，是何道理。

[仁白]

稟我主，龙门陈摆得有一生门有一死门。

[仕白]

何为生门，何为死门。

[仁白]

生门進得死门出不得，死门出得生门進不得。

[仕白]

既然如此，你去吃飯眼上工夫。稟千岁爷爷，龙门陈摆得有一生门有一死门。

[胡白]

何为生门，何为死门。

[仕白]

生门進得死门出不得，死门出得生门進不得。

[胡白]

既然如此，待我奏过圣上再来领赏。

[仕白]

谢恩千岁。

[胡白]

啟奏我主，龙门陈摆得有一生门有一死门。

[王白]

何为生门何为死门。

[胡白]

生门進得死门出不得，死门出得生门進不得。

[王白]

既然如此天時炎热，难为衆軍你与我将陈収来。

[胡白]

谢恩万岁，张仕贵。

[仕白]

不敢。

[胡白]

我王说道，天時炎热难为衆軍。你与我将陈即忙収来。

[仕白]

稟千岁爷爷，龙门陈不要収的。等他边兵来看。

[胡白]

倘若一年不来。

[仕白]

等他一年。

[胡白]

三年五载不来。

[仕白]

等他三年五载。

[胡白]

倘若發風落雨。

[仕白]

每人賜他一個斗笠。

[胡白]

走好好，一時取來。

[仕白]

龍門陳擺都一時的，擺出取陳望千歲爺班（慢）取一取。

[胡白]

走好好一時，再若遲言（遲延）敢看一鞭。

[仕白]

稟千歲爺，暫回營中，小人即忙取來。

[胡白]

老夫在城頭觀望。當不知請那位師父傳叫（教）你。

[仕白]

我見那里。

[仁白]

小人在後院，聽我主呼文（問），即忙到我主限（跟）前，不知有何吩咐。

[仕白]

我主又要取陳。

[仁白]

取陳不難。小人前去取來。

[仕白]

恐那老賊城頭觀望，待我遮□如他。

[仁白]

收起東方甲乙木青旗青號二十五面。收起西方庚辛金白旗白號二十五面。收起南方丙丁火紅旗紅號二十五面。

收起北方壬癸水黑旗黑號二十五面。收起中英（央）戊己土黃旗黃號二十五面。青旗為頭黑旗為尾，大小三軍聽我分付。

[仕白]

聽我分付。

[仁白]

聽你分付，你去取來。

[仕白]

聽你吩咐就是了。

[仁唱]

平生豪气冲天地，
大小三军听我言。
遵依号令取还陈，
個個人人要小心。
真正小军来拱手，
禀了總爷放宽心。

[仁白]

禀我主，龙门陈取还了。

[仕白]

还有龙头龙尾。

[仁白]

俱已取还了。

[仕白]

你去吃饭眼上工夫。禀千岁爷爷，龙门陈取还了。

[胡白]

哇，明了。有一小将取的，你还来哄我。

[仕白]

小人身体劳（老）弱，叫那小军帮取一取。

[胡白]

既然如此，待我奏过圣上，再来领赏。

[仕白]

谢恩千岁。

[王唱]

太宗皇帝傳圣旨，
五方旗号聚三军。
空中观见青龙现，
仔细端羊（详）到阵中。
日月三光星和斗，
照见唐王帝主君。

(十四出)

闻知巴廖二宗将，

有勇無谋计可行。
生擒巴颜皆拱手，
擂鼓懸羊入凤城。

[王白]

胡敬得。

[胡白]

臣有。

[王白]

寡人过海征东要做瞒天计。上不见天下不见水，平平而过海。

[胡白]

谢恩万岁，张仕贵。

[仕白]

不敢。

[胡白]

圣上有旨要做一瞒天计，上不见天下不见水，平平而过海。你与我即忙做来。

[仕白]

限小人三过月。

[胡白]

就要做来，再若遲言（迟延），敢责一鞭。

[仕白]

禀千岁爷爷，暂日营中小人即忙收来，怎么了。

[仁白]

小人在后院听我主呼文（问），即忙到我主限（跟）前，不知有何吩咐。

[仕白]

我王过海征东要做一瞒天计，上不见天下不见水，平平而过海。你可知道。

[仁白]

小人畧知一二。禀我主瞒天计不知紧要。要一百二十五隻海船，连还艎起，船上鞦板，板上排土，土上鞦席，

席上做起龙头（楼）凤阁，四围栽種杨柳，两边做起茶飯□店。此乃上不见天下不见水，平平而过海。

[仕白]

既然如此，你去吃飯眼上工夫。禀千岁爷爷，瞒天计不是紧要，要一百二十五隻海船连还

艎起，船上鞦板，板上排土，土上鞦席，席上做起龙楼凤阁，四章（围）栽種杨柳，两边做起茶飯□店。

此乃上不见天下不见水平平而过海。

[胡白]

既然如此，待我奏过圣上，再来领赏。

[仕白]

谢恩千岁。

[胡白]

我王湊上瞒天计。

[王唱]

坐定当初唐帝主，
平阳地上逞英雄。

红缨方遂五心转，
要杀苏文作反人。

当初风小方波纜（澜），

吸動龙王凌海津。

浪过船头如鼓响，

水冲船板似雷声。

上方差下活神到，

引動四海老龙王。

[王白]

胡敬得。

[胡白]

臣有。

[王白]

这等风还（狂）浪大，怎生是好。快设计来。

[胡白]

谢恩万岁，张仕贵。

[仕白]

不敢。

[胡白]

圣上说道，这等风狂浪大，怎生是好。快设计来。

[仕白]

怎么了。

[仁白]

小人在后院，听我主呼文（问），急忙到。我主限（限）前不知不知□□□□（有何吩咐）。

[仕白]

圣上说道，这等风狂浪大，怎生是好。快设计来

[仁白]

禀我主，圣上乃是真明天子。四海龙王俱已来朝拜。只要□□□（我王写）下免朝二字抛下水，海浪即

止。

[仕白]

我兒，吃飯眼上工夫。稟千岁爷爷。我王乃是真明天子，四海龙王俱已来朝拜。只要我王写下免朝二字抛下水，海浪即止。

[胡白]

免朝二字在此。

[仕白]

抛下水，狗吊屁。

[王白]

胡敬德。

[胡白]

臣有。

[王白]

越發风狂浪大，怎生是好，快设计来。

[胡白]

张仕贵。

[仕白]

不敢

[胡白]

越發风狂浪大，怎生是好，快设计来。

[仕白]

我兒那里，越發风狂浪大，怎生是好，快设计来。

[仁白]

稟我主，免朝二字何人写的。

[仕白]

是千岁写的。

[仁白]

狗吊屁，要我王御笔新写免朝二字抛下水，方可平平而过海。

[仕白]

你去吃飯眼上工夫。稟千岁爷爷，要我王御笔新写免朝二字抛下水，方可平平而过海。

[胡白]

啟奏我王，乃是真明天子，四海龙王俱已来朝拜，只要我王写下免朝二字跑下水，海浪即止。

[王白]

免朝二字在此。

[胡白]

张仕贵。

[仕白]

不敢。

[胡白]

我王写下免朝在此。

[仕白]

抛下水，这就一牒藥。

[胡白（唱）]

我王圣旨抛下水，

總管前来说是因。

有一小将船头立，

头戴金盔顶红缨。

腰间繫了丝罗带，

方天戟在手中存。

旗头风擺翻波浪，

披甲寒兵出水津。

□□□因张仕贵，

陈中忽见一小軍。

翻天戟在空中现，

跨海青駢探海龙。

[王唱]

太宗呼唤胡敬德，

正是南柯夢裡人。

今朝得见擎天柱，

万里江山定太平。

寡人勒馬观大海，

龍睛凤眼看津波。

上照绿水翻波浪，

下照青天水绝（结）塵。

唐王自有齐天福，

波过来津大海門。

洪福太宗収小国，

视告虚空过径神。

万里南朝到海岸，

唐王准备杀遼兵。

(十五 出)

[王白]

胡敬得。

[胡白]

臣有。

[王白]

寡人闷坐中军帐，要看一平遼立该做来。

[胡白]

张仕贵。

[仕白]

不敢。

[胡白]

我王闷坐中帐，要看一平遼論。你与我一時做来。

[仕白]

小总官是武，不知文畧。

[胡白]

哇，先前摆龙门阵，你说是文不知武畧。如今做平遼論，你又说是武不知文畧。再若多言敢责一鞭。

[仕白]

禀千岁爷爷，限小人三个月。

[胡白]

就要一時做来。

[仕白]

且入营中，小人即忙做来怎么了。

[仁白]

小人在后院，听我主呼唤。即忙到我主限（跟）前，不知有何吩咐。

[仕白]

我王要看一平遼論，你可知道。

[仁白]

小人畧知一二。

[仕白]

我兒即忙做来。

[仁大唱]

讀德（的）古聖書文，三畧黃公計，风云時聚會，恭身向灯前，筆了用心堅，若能早托平遼論，掃那時方寸，

我心□□□（不怕他）巴家將，廖家兵，煞（杀）得有影無形，生擒巴顏皆拱手，活捉廖家草寇人。

[仁白]

稟我主，平遼論在此。

[仕白]

我兒做得好，你去吃飯眼上工夫。稟千岁爷爷平遼論在此。

[胡白]

豈不知請那位師父傳叫（教）如你。

[仕白]

不敢。是是小人做的。

[胡白]

既然如此，待我奏過聖上，再來領賞。

[仕白]

謝恩千岁。

[胡白]

啟奏我王，平遼論在此。

[王白]

你讀得一變（遍）。我听着。

[王唱]

天子坐在銀交椅，

兩班文武定乾坤。

軍師茂公為大將，

陰陽禍福掌中論。

寶印明官三十六，

護駕雄兵有千人。

喝道一聲遼兵退，

開弓放箭似流星。

鋼叉鐵棒翻身轉，

白袍馬上逞英雄。

[王白]

天子御駕征東，自從離了長安大國過了東羊大海，就文江越虎城，安營下寨。

[詩]

帝到越虎城，

安营且歇兵。
点兵忙操演，
推脩杀遼兵。

十六出 「團圓」

〔〔畫堂春〕〕

東风吹柳日初长。雨如（徐）方（芳）草斜陽。杏花零落燕泥香。睡损红粧。

〔〔白〕〕

战定边江，不旺（枉）身劳壤。朝廷勅令转回，啟奏我王，金銮 间将军回来了。

〔〔仁白〕〕

回来了。

旦 白

征战有功。

〔〔仁白〕〕

可喜可贺。

〔〔茂白〕〕

一封当书到吹下九重肖（住驕）。

〔〔旦白〕〕

我夫，朝廷圣旨到来。

〔〔仁白〕〕

快摆香案迎接。

〔〔茂白〕〕

圣旨一到，跑（跪）听宣讀。

皇帝诏曰，寡人过海征东，矣良是籍，多虧薛仁贵。十大功劳，薛仁贵，封为一事平遼王。其妻柳氏，封为一品夫人。薛丁山，封为护国大将军。一家大小，俱已用封，不得有为叩阙。

〔〔仁白〕〕

谢恩安排圣旨，圣旨上龙亭，有劳大人，光降未曾远迎，多有得罪。

〔〔茂白〕〕

欽造贵存。

〔〔仁白〕〕

多有得罪，大人请在荒（黃）忙（庄）宽住几日。

[茂白]

朝衣在身，不敢九留，就此告行。

[仁白]

夫人，後面看天字号，艮（銀）字号，送与老大人。一为过山之礼。

[茂白]

这也不肖（消），打道前行。

[仁白]

薛仁贵远送远送。征南，战北，功劳顯，方遂男兒願，杀退遼兵賊，滅却仕贵奸。辛喜圣朝，骨肉團圓，办住多久，答上蒼天。酹谢保平安，裕寿光前，福寿绵绵，晋取千年，作话傳。

團圓，團圓，大團圓